

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **80** 2022
春号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.23
令和3年度 卒業式



Contents

特集	理事長・学長からのメッセージ vol.23	3
	令和3年度 卒業式	4
	令和4年度 入学式	6
	退任の挨拶	8
	就任の挨拶	8
	令和4年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	10
	図書館だより	12
	MBT 研究所だより (第24報)	13
	国際交流センターだより vol.7	14
	安全保障輸出管理への取り組み vol.5	17
	先端医学研究支援機構だより	18
	看護部の紹介	19
	働き方改革だより	20
Topics	COVID-19 蔓延下における放射線治療の現状	21
Campus News	MBT 研究所運営会議を開催しました	22
	大和平野中央スーパーシティ構想検討会が開催されました	22
	令和3年度FD・SD講演会を開催しました	22
	経団連「地域協創ウェビナー」に参加しました	22
	MBT 映画祭の入賞作品をYouTube で公開します	23
	臨床研究県民公開講座をハイブリッド形式で開催しました	23
	TQM大会表彰式を行いました	23
	第2回MBT 難病克服支援 Web セミナーを開催しました	24
	大和漢方医学薬学センター委員会を開催しました	24
	在宅看護特別教育プログラムを修了しました	24
	MBTの在宅医療への取り組みについて	24
	協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました	25
	奈良健康フェア 2021 を開催しました	25
	けいはんな映画劇場でMBT 映画祭受賞作品を上映しました	26
	体験型大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	26
	北海道更別村社会福祉センターにてMBT 講演をしました	26
	福島県伊達市霊山里山がっこうでMBT 講演・意見交換会を開催しました	26
Winner Report	第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会で優秀演題賞を受賞しました	27
	International Journal of Urologyにおいて Top Cited Article Award 2020を受賞しました	27
	第120回日本神経学会近畿地方会で若手奨励賞(優秀賞)を受賞しました	27
	第132回日本循環器学会近畿地方会 YIA セッション優秀演題賞	27
	第19回日本神経理学療法学会学術集会にて最優秀演題賞を受賞しました	28
	JRS Young Scientist Awardを受賞しました/ Scientist Awardを受賞しました	28
	第41回アルコール医学生物学研究会学術集会で優秀演題賞を受賞しました	28
	令和3年度FD活動表彰式を行いました	28
	令和3年度TBL Best Teacher 表彰式を行いました	29
	令和3年度 学位授与の状況	29
	未来への飛躍基金だより	30
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	30
Information	公開講座情報	31
	令和4年度入試結果	31
	編集後記	31
	メディア掲載情報	32

学長3期目にあたって

理事長・学長 細井 裕司

この度、学長3期目を拝命いたしました。

学長就任後の8年間、奈良医大の発展に尽力いただきました教職員、学生、同窓生、お世話になった方々にお礼申し上げます。

コロナ禍にあっても、奈良県民の医療の最終ディフェンスラインの役割を十分に果たしていただきました。このことは4回のNHKの放送によって全国に紹介されました。また、コロナ克服のための研究やその研究から生まれた製品が全国に行き渡ることによって奈良医大の存在感は大いに高まったと思います。

今後の大きな行事として新キャンパスの開設があります。当初の計画通り粛々と進めて参りたいと考えています。そして、コロナ後を見据えて、奈良医大の全国における存在感をさらに高める努力を行って参ります。

今期から新たに教育研究審議会の委員に整形外科の田中康仁教授（臨床教育部長）、成人慢性期看護学の田中登美教授（看護教育部長）に就任いただきました。また、小児看護学の川上あずさ教授（看護教育部長）には、看護学科長の職に就いていただきました。経営審議会の新委員として元NTT西日本代表取締役社長の太竹伸一様に就任いただきました。

新体制で奈良医大を一層発展させていく所存です。

「挑戦する人か、挑戦する人にあれこれ言う人か。」

卒業式、入学式等でこのことばを贈っています。自分が「あれこれ言う人になっている」と思ったら、「挑戦する人」に転換してください。きっと人生が豊かになりますと伝えていきます。これは私自身に対する戒めのことばでもあります。

卒業式、入学式の学長式辞もそうです。みなさんは小学校から大学まで校長や学長の式辞を何回も聞いてきたはずですが、校長や学長のことばを少しでも覚えていますか。どうすれば話が理解しやすく、記憶に残るかを考えた結果、この3月の卒業式と4月の入学式にはパワーポイントで視覚情報も入れて式辞を述べました。視覚情報を入れて式辞が述べられたことは極めて珍しいと思いますが、旧来の慣習にとらわれず、常に新しいことに挑戦しよう、どんな小さなことでもより良いものに改善していこうと思っています。

教職員、学生、同窓生の皆様のご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和3年度 卒業式

式辞

学長 細井 裕司

「奈良医大は一生の宝」

今日のおき日、奈良県立医科大学医学部を卒業する112名、看護学科を卒業する76名の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。皆さんは小学校入学以来の長い学生生活を修了され、ここに学士（医学）、学士（看護学）の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります、それと同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思ひます。

奈良医大は一生の宝

満足のいく人生を送るために、最も助けになるのは友人です。大学時代の友人は、本当に親身になってくれるので、安心して相談ができる人々です。一生の宝です。

それにも増して大きな宝があります。それは母校奈良県立医科大学です。皆さんが卒業後、40歳、50歳、60歳になったとき、母校の力が必要な時があると思ひます。奈良県立医科大学の卒業生で良かったと感じる時が必ず来ます。

そのために「医療人育成機構」を立ち上げました。奈良医大に入学者はその時点から一生、つまり卒業後も生涯教育等において、サポートするための組織です。いつでも母校奈良県立医科大学を頼ってください。

また、特に卒業後奈良医大を離れる人は、苦しいこと楽しいことがあった時など奈良医大の同窓会に知らせてください。時々には母校を訪れてください。

奈良医大の存在感

私は奈良医大を日本において、そして世界において、存在感の大きい大学にしたいと考えてきました。それぞれの教室がそれぞ

れの医学の分野において、際立った業績を上げることは存在感に大きく寄与することは当然ですが、これらのことはすべての医科大学において行われています。

皆さんが育った奈良医大は他大学とは異なる特別な医科大学であることを再確認していただくため、その例としてMBTとアントレプレナーシップをあげたいと思ひます。

① MBT

私は、奈良医大が独自の視点で、日本に貢献することを考えてきました。その考えを実現するために、住居医学を打ち立て、そして18年かかって奈良医大独自のMBT構想、MBT運動が大きく社会に貢献するようになってきました。MBTとはMedicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくりのことで、私の造語です。その中心となっているのが、奈良医大MBT研究所とMBTコンソーシアムです。単科の医科大学に全国から全業種から230の企業団体が奈良医大に集まり、共同で多くのプロジェクトを行っています。具体的には、多くの企業に医学知識を供与することによって、イノベーションを起こし、産業創生を行っています。230の企業のうちの27% 61社は東証（東京証券取引所）プライム市場上場予定企業です。これらの大企業と地場企業が協業することにより、地域活性化が行われます。医学による、奈良医大による産業創生、地方創生です。産業創生も地方創生も最終的には生活する人々のためにあるわけですから、その人々の生活の場としてのtownを標榜し、Medicine-Based Townとしています。実際に、北は北海道から南は鹿児島まで、全国20カ所において医学知識・技術を注入したまちづくりを行っています。兵庫県三木市の例が示すように、医学をまちづくりに生かすことによって、医療費の削減や健康の増進に大きな成果を上げています。

また、より直接的な社会貢献として、コロナ克服キャンペーン、難病克服キャンペーンを行っています。これらの社会活動は日本経済団体連合会に認められ、今後、奈良医大は経団連と連携して、MBT活動を全国展開していくことになりました。難病克服のための映画祭、第2回を来年1月に経団連と共催で、東京有楽町マリオンで行う予定です。

②アントレプレナーシップ

次にアントレプレナーシップです。私は、奈良医大にアントレ



医学部卒業生

プレナーシップを根付かそうと考えました。アントレプレナーシップは、「新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さ」を意味します。会社を立ち上げる、起業するしないに関わらず、この精神は医科大学においても重要です。実際、呼びかけに応じて、この1年間で3社が立ち上がり、合計4社となり、大学発ベンチャーの数が公立医科大学中トップとなりました。このような環境を醸成したことによって、起業に意欲を示す学生も出てきました。ビルゲイツやマークザッカーバーグのような学生時代に起業して成功した人は多いですが、奈良医大からもこのような革新的な人が出る芽がでてきたと期待しています。

皆さんの存在感

私なぜ MBT やアントレプレナーシップの話をしたのか、それは、「皆さんは、このような他大学にはない、独自の視点と考えを持った、挑戦し続ける奈良医大で学んだ医師や看護師であることに誇りを持っていただきたいからです。」皆さんが学生時代に直接 MBT やアントレプレナーシップに関与しなくても、この独自の視点を持った、進取の気性に富んだ大学で育ったことは、皆さんの将来において「挑戦する人、挑戦し続ける人」になることの土台になると思います。

そして、独自の視点、独自の考え、挑戦する意欲を持つことによって、卒業後、日本で世界で存在感のある人に成長していくでしょう。

おわりに

この式辞を終るにあたり、ある言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦する人か、挑戦する人にあれこれ言う人か。」です。皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大で大きな能力を身につけて世の中に出発されます。もし皆さんが人生の途中で「あれこれ言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

3年後にできる新キャンパスのパスを見ながら、再度述べます。

「挑戦する人か、挑戦する人にあれこれ言う人か。」

本日は本当におめでとうございます。



看護学科卒業生

新たな旅立ち（医学部卒業式 大学院修了式 令和4年3月15日）

今年も258名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。（258名：医学科112名、看護学科76名、大学院医学研究科博士課程47名、同修士課程9名、看護学研究科修士課程14名）

また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。（敬称略）

◆奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を取めた者

み や た ま さ ゆ き
医 学 科：宮田 将行

の が み ち ほ
看 護 学 科：野上 千穂

◆医学科同窓会厳糧賞、看護学科同窓会華糧賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者（ヒーローオブザクラス）
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

い つ か し つ し ま ゆ う と こ ば や し ゆ う す け
厳 糧 賞：津島 祐斗、小林 優佑、

な が た り こ
長 田 理 瑚

は な か し た な か む つ き お ご り な な み
華 糧 賞：田中 睦貴、尾籠 七海

学長賞受賞者



医学科 宮田 将行

この度は学長賞という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。自分の努力をこのような形で評価してくださったことを大変うれしく感じると同時に、この賞に恥じることはない医師にならなければならないという責任を強く感じております。

振り返ると、この6年間多くの方に支えられてきました。医学の奥深さ、医学に真剣に向き合うことの大切さを教えてくださった先生方、不自由なく学校生活を送れるようにくださった職員の方々、悩みを聞きアドバイスをくださった先輩方、ともに研鑽し成長してきた同級生、慕い支えてくれた後輩たち、そしてこれまでの人生を共に歩み育ててくれた家族。その他にも多くの方に支えていただきました。言葉では言い表すことができないほど感謝の気持ちでいっぱいです。

これまでに受けた大きな恩を返し、次の代へと繋げていくようにこれからも精進を重ねていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



看護学科 野上 千穂

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。

看護師になるという幼い頃からの夢を叶える為の日々は、要領が良いとはいえない私にとって容易なものではなく、何度も涙し、挫けそうになりました。しかしどのような時も私の周りには沢山の温かい支えがありました。いつも私のことを考え応援してくれた家族、楽しいこと、苦しいことを共にし、支え励まし合った友人、貴重な学びを得られるよう学習環境を整えてくださった教職員の方々や大学関係者の方々に、この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

「自分の仕事に誇りを持って。毎日を大切に。」この言葉は、受け持ち患者様にかけて頂いた言葉です。患者様とそのご家族にじっくりと向き合い、それぞれの生を大切にできる看護師になれるよう、これからも努力を重ねていく所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

令和4年度 入学式

式辞

学長 細井 裕司

「奈良医大は特別な医科大学」

今日、春爛漫の良き日に医学部医学科 113 名、同 2 年次編入生 1 名、医学部看護学科 85 名、合計 199 名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができますのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。

本来であれば、保護者の皆様、そして来賓の方々をこの場にお招きして式典を挙げる所ではございますが、本日は、新型コロナウイルス感染症の対策で、皆様方の安全を最優先するため、教職員、同窓会長様のみで挙行し、その模様をウェブ配信させていただいています。

ご多忙の中御臨席いただきました、

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会会長

國分 清和 様

奈良県立医科大学医学部看護学科同窓会会長

植村 信子 様

に厚く御礼を申し上げます。

はじめに

皆さんは、私がそうであるように、奈良県立医科大学に入学し奈良医大で学んだことが人生を通して本当に良かったと思う、と私は確信しています。この思いは時を経るにつれ大きくなっていきます。つまり、看護学科生は 4 年生になり、医学科生は 6 年生になり、卒業し、看護師になり、医師になり、経験を積んで、看護師、医師としての自信に満ちあふれるようになり、そして、還暦を迎え、人生を振り返る時「奈良医大で学んで本当に良かった」とここにいる皆さん全員が感じるはずですよ。

なぜそう思うのかの根拠をお話します。



奈良医大は特別な医科大学

奈良医大はどのような大学か。それは、発展する医科大学、面倒見の良い医科大学、進取の気性に富む医科大学、奈良を基盤にして全国展開する医科大学、そして他学にはない力を持つ特別な医科大学です。

それぞれについてお話しします。

発展する医科大学

教育、研究、臨床という医科大学の基本的使命については、教育改革、研究論文の質と量、病院機能の充実等、着実に発展していますが、ここでは、目に見える進捗を報告します。それは、3 年後に第 1 期の完成を予定している新キャンパスです。



新キャンパス 南西からの鳥瞰図

面倒見の良い医科大学

奈良医大は在学中だけでなく、医師や看護師として活動する一生をサポートしようと考えています。

奈良医大に入学された方を、特に専門教育面で、一生面倒を見る医療人育成機構を創設しました。

また、奈良医大独自の「未来への飛躍基金」を用いて学生の海外留学を促進しています。今までに多くの先輩が海外で研修されました。



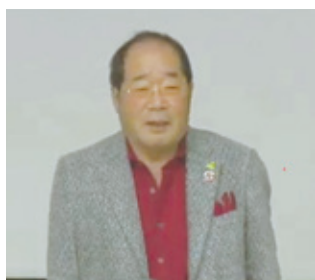
進取の気性に富む医科大学

単に医学の知識を教えるのではなく、医学以外の分野も知る医師・看護師を育てようと思っています。

そのために、経済界など各界の著名人に奈良県立医科大学特命教授になっていただき、学生に接していただくことによって、視野を広く持つ人間として成長していけるように心がけています。スライドにダイソー創業者の矢野博丈様、DMG 森精機社長の森雅彦様の講義の様子を示します。今年からはパナソニック前会長の長榮周作様にも加わっていただきます。

アントレプレナーシップの醸成に力を入れています。アントレプレナーシップとは「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さのことを意味しています。医科大学においてもこの精神は重要だと思います。

医科大学発のベンチャー企業は少ないのですが、奈良医大では昨年の年頭に設立を奨励して以来増加してきました。世界ではビルゲイツやマークザッカーバーグのように学生時代に起業した人も多く、奈良医大においては学生が起業する場合においても後押しするつもりです。



矢野博丈 MBT 特命教授
(100円ショップダイソー創業者)



森 雅彦 MBT 特命教授
(DMG 森精機社長)

奈良を基盤にして全国展開する医科大学

奈良医大には今皆さんがおられる橿原キャンパス以外に全国に6カ所のキャンパスがあります。

北海道に1カ所、東京都に1カ所、大阪府に1カ所、奈良県に3カ所です。

奈良県立医科大学陽子線がん治療研究センターの装置を示します。この橿原キャンパスではなく、橿原外キャンパスの一つ、天理市にあります。



奈良県立医科大学陽子線がん治療研究センター（高井病院内）

特別な医科大学

私は、奈良医大が独自の視点で、日本に貢献することを考えてきました。その考えを実現するために、住居医学を打ち立て、そして18年かかって奈良医大独自のMBT構想、MBT運動が大きく社会に貢献するようになってきました。MBTとはMedicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくりのことで、私の造語です。その中心となっているのが、奈良医大MBT研究所とMBTコンソーシアムです。単科の医科大学に全業種から230の企業が集まり、共同で多くのプロジェクトを行っています。このような例は世界的にも極めて珍しく他学にはない奈良医大独自の活動と言えます。企業の本社所在地は全国に分布しており、全国的な組織だと言えます。奈良医大は単に奈良医大の力だけでなく、このような大きい組織に支えられていることをお伝えしたいと思いました。

具体的には、多くの企業に医学知識を供与することによって、イノベーションを起こし、産業創生を行っています。230の企業のうちの27% 61社は東京証券取引所プライム企業です。これらの大企業と地場企業が協業することにより、地域活性化が行われます。医学による、奈良医大による、産業創生、地方創生です。産業創生も地方創生も最終的には生活する人々のためにあるわけですから、その人々の生活の場としてのtownを標榜し、Medicine-Based Townとしています。実際のまちづくりについても、北は北海道から南は鹿児島まで、全国20カ所において医学知識・技術を注入したまちづくりを行っています。また、より直接的な社会貢献として、コロナ克服キャンペーン、難病克服キャンペーンを行っています。難病克服キャンペーンの一つとして本年1月橿原市において映画祭を開催しました。これらの活動は日本経済団体連合会に認められ、今後、奈良医大は経団連と連携して、MBT活動を全国展開していくことになりました。難病克服のための映画祭、第2回を来年1月に経団連と共催で、東京有楽町マリオンで行う予定です。

贈ることば

この式辞を終わるにあたり、ある言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦する人か、挑戦する人にあれこれ言う人か。」です。皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大に入学されました。奈良医大で大きな能力を身につけていただきたいと思います。大きな能力を身につけられるかどうかは皆さんの心がけ次第です。挑戦する人になるのか、挑戦する人にあれこれ言う人になるのかでは卒業時点で大きな相違が出てきます。

もし皆さんが「あれこれ言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

再度述べます。「挑戦する人か、挑戦する人にあれこれ言う人か。」本日は本当におめでとうございませう。

退任の挨拶



循環器内科学 教授 齋藤 能彦

2022年3月で定年退職させていただきました。充実した20年間を過ごさせていただき有難うございました。皆様のご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

赴任いたしました時は第1内科でしたが2018年に腎臓内科と循環器内科に分離独立し、腎臓内科には九州大学から鶴屋和彦教授をお迎えすることができ、大変嬉しく思っております。奈良医大は奈良県のターミナルホスピタルです。全ての県民が、どのような病気に罹患しても安心して受診できる病院でないといけません。専門性を揃えるとともに、人に優しい病院であり続けてください。With コロナ、難しい舵取りが大学・病院に要求されます。このような困難な時こそ、「最高の医学と最善の医療を持って地域の安心と社会の発展に貢献します」という建学の精神を大事にしてください。奈良医大の発展を心からお祈りしております。有難うございました。



放射線腫瘍医学教授 臨床教育部長 長谷川 正俊

2005年春の着任から17年間、教育、研究、診療、他に日夜精進してきましたが、この3月末で退任となります。ご指導、ご支援、ご協力いただいた多くの皆様に心から御礼申し上げます。

教育では、特に臨床教育部長として、臨床医学教育の改善・発展に積極的に取り組み、最近では、適切な感染対策下での臨床実習の実施に努力してきました。研究では、放射線生物学、放射線腫瘍学の分野において、粒子線治療や分割照射の解明に取り組んできました。診療面では、放射線治療の他、がん対策全般に関与し、がん診療連携拠点病院の運用、臓器別がんセンターボードの開催等をすすめ、臨床研究の審査も長年行ってきました。さらに本学の運営、社会貢献等でもいろいろと活動する機会をいただきました。本学の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



病理診断学 教授 大林 千穂

昭和57年に卒業以来、30年ぶりに病理診断学講座教授として母校に戻り、瞬く間の10年でした。その間、NPICによる病理診断の病連携、「病理遺伝子解析ユニット」開設によりゲノム医療への対応ができ、入局者も増えました。これらは大学や関係医療機関の皆さまのご支援、そして教室員や病理部技師の皆さんの協力あってのことと御礼申し上げます。加えて、講座を主宰することで、私自身が医師として、人として勉強する多くの機会をいただいたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。



精神看護学 教授 風間 眞理

令和4年3月31日をもちまして退任することとなりました。2017年10月1日から4年半、奈良県立医科大学で教育、研究に当たらせていただきました。私は、「精神障害を持つことで生きづらさを抱えている人たちの力になる看護師を育てる」という思いのもと、看護学実習、授業を改善してきました。ただ、4年半という短い期間の中、完結させるまでには至らず、これからは領域の教員にバトンを渡し、完成させていただきたいと願っております。この、4年半充実した日々を送ることができたのは、大学教職員の皆様、看護学科の教員の皆様、精神看護学領域の先生方のおかげだと思っております。感謝申し上げます。そして、奈良県立医科大学の益々のご発展を心より願っております。

就任の挨拶



教育・研究担当理事 副学長 医学部長 医学科長 附属図書館長 嶋 緑倫

この度、医学部長の再任を拝命いたしました。第1期の2年間は新型コロナウイルスの対応に追われましたが、web、ITや高度シミュレーターを利用した新たな教育スタイルを導入するきっかけになりました。今後は様々な教育リソースを活用して参加型教育を推進し日進月歩の医学の進歩に対応できる人材を育成するとともに、本学が目指す良き医療人のマインドの醸成に努めたいと存じます。研究面では論文数、科研や厚労科研/AMEDの採択件数は順調に増加しています。URA業務を一層充実させ、様々な入口・出口支援策を講じることで本学の研究力をさらに高めるよう努力してまいります。

皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



医療担当理事 副学長 附属病院長 吉川 公彦

この度、令和4年4月1日付で医療担当理事、附属病院院長の2期目を拝命致しました。令和2年4月1日、病院長就任直後に、県内でも新型コロナウイルス感染症の拡大がみられ、当院はコロナ重点医療機関として、県から150床のコロナ病床確保を求められました。私は細井理事長・学長を本部長とする法人の対策本部の下に設置された「病院部会長」として、ほぼ全職種から構成される14個のワーキンググループを立ち上げ、各ワーキングでの議論で出た意見や課題を毎週金曜日午後の「病院部会」で整理・決定し、法人全体が関与する事項については、翌週月曜日の「対策本部会議」で議論し、決定しました。このような多職種に亘る情報共有と迅速な意思決定により、全職員が一丸となり、この最大の危機を何とか乗り越えることができたような気がします。

依然としてコロナ感染状況は予断を許さない状況ではありますが、今後は1) 県内唯一の特定機能病院として高度・先進医療を安全に提供できる体制づくり、2) 地域医療機関と相互に緊密に連携し、地域医療構想にむけた体制整備、3) 働き方改革にむけた短時間計画作成、4) 24時間ER体制の実施、5) 在宅医療支援センターによる在宅医療の推進、6) 臨床研究中核病院を目指した体制整備 にむけて法人と密に連携して病院運営にあたる所存です。

教職員の皆様ならびに同窓の方々におかれましては、より一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

就任の挨拶



研究部長 医学研究科長 吉栖 正典

この度、4月1日付で研究部長、医学研究科長に再任されました。この2年間、研究推進戦略本部により策定された「研究力向上を目指した行動計画」により、研究支援体制の強化がなされました。先端医学研究支援機構の医学研究支援センター長に発生・再生医学講座の栗本教授を迎え、テクニシヤンの増員も図られました。また、研究力向上支援センターにもURA1名の増員がありました。本学の英文論文数は2011年～15年の5年間に比べ、その後の5年間で1.57倍に増加し、科学研究費をはじめ競争的資金の獲得も順調に増加しています。また、COVID-19の蔓延下においても、本学独自のユニークな研究が次々に発表されています。まだまだ道半ばではありますが、これからも本学の研究支援体制の強化を図っていく所存です。今後もすべての教職員の皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



看護学科長 看護学研究科長 川上 あずさ

この度、看護学科長、看護学研究科長を拝命いたしました。重責を実感しています。看護学科は前年度まで、保健師助産師看護師養成に関する指定規則の改正に伴う教育課程の変更、看護学教育分野別評価受審の準備をすすめてきました。新年度から新しいカリキュラムが始まり、分野別評価を受審します。看護学研究科については、博士課程開設にむけて準備を進めていかなければなりません。皆様のご支援とご協力をいただき、課題の達成に向けて微力ながら尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



教養教育部長 酒井 宏水

医学科・看護学科の一般教育組織を統合し、教養教育部門が新設され8年目を迎えました。新入生対象の医看合同科目も本学の重要な科目として定着しました。本部門は多様な分野の教員によって構成され、学問の垣根を超えるとなかなか理解が及ばないことがありますが、定例の協議会等で議論を尽くし、少しでも良い方向に解決されるよう心がけたいと思います。教育改革など変化が速い上に、コロナ禍対応のカリキュラム編成、新キャンパス先行整備などの対応が求められる重要な時期に、教養教育部長に再任され、責任の重さを感じています。引き続きご支援とご協力を頂きたい、宜しくお願い致します。



基礎教育部長 堀江 恭二

この度、基礎教育部長(再任)を拝命いたしました。基礎医学の学習期間は、知識の習得のみならず、医学を主体的に学ぶ姿勢を形成する上で大切な時期と考えています。先生方のご協力のおかげで、リサーチクラークシップをはじめとした研究マインド醸成プログラムも定着してきましたが、多様な学生気質に対応するには、教育システムの更なる改善が必要とも感じています。特に、過去2年間のコロナ禍は、教育のあり方を根本から考え直す機会となりました。多方面の教職員の皆様との連携のもとに、基礎医学教育の充実に努める所存です。よろしくお願い致します。



臨床教育部長 田中 康仁

この度、臨床教育部長を拝命いたしました。前任の長谷川正俊教授が、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠できるように臨床実習システムを改革してこられました。このシステムを引き継ぎ、さらに診療参加型実習を推進することで、卒前から卒業教育にスムーズに移行できるようになればと考えております。皆様のご意見をお伺いしながら、学生が卒業までに身につけるべき能力を修得するためのシステムの充実に努力いたします。大変お世話をおかけいたしますが、何卒ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



看護教育部長 田中 登美

この度、4月1日付けで看護教育部長を拝命いたしました。本学に参りまして3年という若輩者ではありますが、医療・福祉、そして教育を取り巻く社会状況の変化に対応しながら、求められる看護学教育を実践していきたいと身の引き締まる思いです。看護学科は、本年度より指定規則の変更による新しいカリキュラムでの教育が始まります。学生が、大学生活において多彩な体験を積み重ねることで豊かな心を持った看護専門職業人として成長発達ができるよう支援していきたいと思っております。みなさまのご指導とご支援をいただきますことを心よりお願い申し上げます。

令和4年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

令和4年度は、第3期中期計画の4年目となり、3年間の取り組みが成果として現れてくるとともに、課題となっている項目については、その解消に向けて取り組むことが必要な年となります。一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大により、いまだ平常時に戻らない状況が続いており、コロナ病床の確保に伴う病床稼働の抑制等により、附属病院収入の減収が続くことが見込まれます。

そのような状況を踏まえ、病院収入以外にも、必要な予算については県等からの支援を活用するとともに、第3期中期計画期間中での目標である繰越欠損金の縮減を達成するため、令和4年度は収支均衡に向けた予算編成を行いました。

予算規模については、人件費や診療経費等の増加が見込まれ、令和3年度の566.4億円と比較して70.7億円増の

637.1億円となりました。

令和4年度の主な取組としては、来院者の検温や新型コロナウイルス患者受け入れ病棟の清掃などといった新型コロナウイルス感染症対策や、地域包括ケアシステムの構築に向けた「奈良医大在宅医療支援センター」の設立のほか、建物の耐震対策などの施設整備や第3期中期計画にある「良き医療人の育成」、「県内基幹病院として機能の充実」など、法人の将来を見据えた取り組みを引き続き行います。

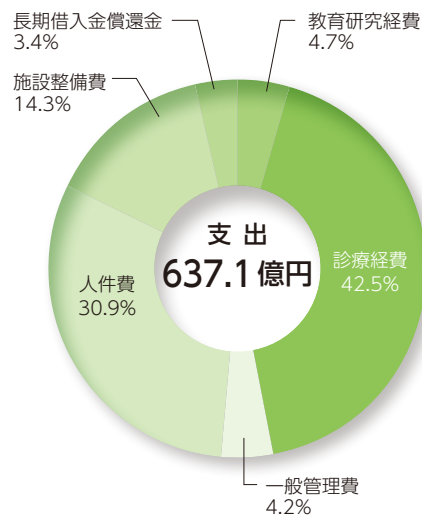
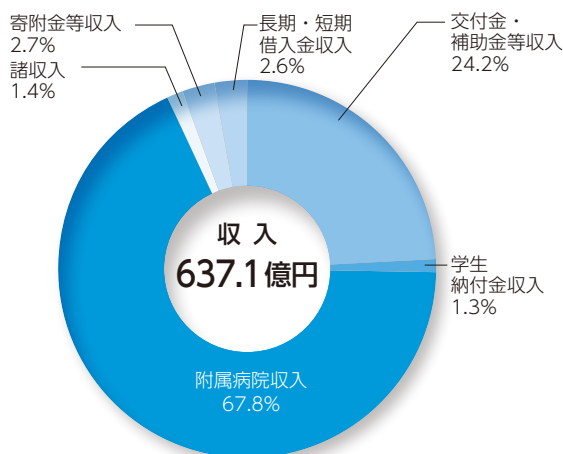
また、新キャンパスの新築工事や造成工事など、新キャンパス移転に向けた取り組みも継続して実施します。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員の皆様には、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

令和4年度予算の内容

項目	予算額	構成比
収入		
法人が自ら得た収入 (自己収入)	449.2億円	70.5%
附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	431.8億円	67.8%
学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.4億円	1.3%
その他の収入 (諸収入)	9.0億円	1.4%
他機関等からの支援 (交付金・補助金)	154.0億円	24.2%
県からの支援 (運営費交付金等)	53.0億円	8.3%
国等からの支援 (補助金収入)	101.0億円	15.9%
職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	17.2億円	2.7%
借入金 (長期借入金等収入)	16.7億円	2.6%
収入計	637.1億円	100.0%

項目	予算額	構成比
支出		
義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	218.8億円	34.3%
職員への給与の支払い (職員給与)	190.1億円	29.8%
退職手当の支払い (退職手当)	7.0億円	1.1%
借金の返済 (長期借入金償還金)	21.7億円	3.4%
業務の運営に必要な経費 (業務費等)	327.2億円	51.4%
大学での教育研究に必要な経費 (教育研究経費)	30.2億円	4.7%
附属病院での診療に必要な経費 (診療経費)	270.5億円	42.5%
法人の運営全般に必要な経費 (一般管理費)	26.5億円	4.2%
施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	91.1億円	14.3%
支出計	637.1億円	100.0%



令和4年度予算の主要事業・新規事業

地域貢献

適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上

- 県立医大医師派遣センターの運営
● 県費奨学生配置センターの運営
35,500千円 (R3 35,800千円)
医師配置の一元的な運営体制のさらなる整備、県費奨学生の地域配置などの支援
- 県民健康増進支援センター運営費
18,300千円 (R3 18,300千円)
市町村や県の健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供
- ドクターヘリ運航推進事業 273,000千円 (R3 253,400千円)
ドクターヘリ運航にかかる委託経費等
- 新奈良医大在宅医療支援センター運営事業 20,000千円
地域包括ケアシステムの構築に向けた奈良医大在宅医療支援センターの設立・運営に要する経費

教育・研究部門

学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実

- 良き医療人育成推進事業 35,678千円 (R3 35,372千円)
豊かな人間性に基づく高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、最善の医療提供を行う強い意志を持った医療人の育成
- 医師・患者関係学講座事業 33,000千円 (R3 33,000千円)
医師としての人間性を育むための支援を行う講座の設置・運営にかかる経費
- 反転授業推進事業 3,465千円 (R3 300千円)
学生の能動的学習を促進するため、「アクティブ・ラーニング」による新しい授業手法や医学部向けの授業運営・自己学習支援用e-learningシステムの実施に要する経費
- 重点研究推進事業 21,510千円 (R3 23,460千円)
血栓止血の制御に関する研究および画像下での低侵襲医療(IVR)に関する研究
- 研究環境充実事業 22,615千円 (R3 22,000千円)
横断的共同研究への助成、若手研究者への助成、科研費申請への支援、公的研究費の不正防止など研究環境の充実に要する経費

診療部門

患者サービスの向上、病院機能の充実

- 新型コロナウイルス感染症対策
44,879千円 (R3 39,111千円)
来院者の検温、手指消毒薬の補充、面会制限の強化、受け入れ病棟の清掃など新型コロナウイルス感染症対策に要する経費
- 耐震対策事業(病院) 219,834千円 (R3 152,000千円)
耐震性能が低い施設(厳糧会館、教育研修棟、スキルスラボ棟)の応急対応を行うための経費
- 病院施設の各所改修 235,530千円 (R3 418,680千円)
病院機能の維持・向上を図るための施設(A棟屋上防水、旧RI検査室、旧採血室、本館1階中央放射線部エアコン等)の各所改修を実施
- 新病院広報事業 3,500千円
病院のHPや案内冊子の更新に要する経費

まちづくり

医科大学を中心としたまちづくりの推進

- 新キャンパスの整備
6,966,889千円 (R3 1,597,304千円)
新キャンパスの新築工事、造成工事、継続整備検討などにかかる経費

管理部門

法人組織の円滑な運営・福利厚生の充実、事務の合理化の推進

- なかよし保育園の運営 130,662千円 (R3 148,210千円)
職員の保育二一ズに対応するため、運営委託、病児保育委託を実施
- 耐震対策事業(大学) 700,496千円 (R3 66,100千円)
耐震性能が低い施設(基礎医学棟、看護学科棟、第二臨床講義棟)の応急対応を行うための経費
- 新ESCO事業諸費 136,961千円
省エネルギー化を図るために導入したESCO事業における、省エネ診断、設備改修の設計・施工、運転・維持管理などのサービスを受けるための経費

所蔵資料検索のコツ

図書館の所蔵資料検索には、ややこしいポイントがいくつかあります。今回はちょっと知っているのと役立つ所蔵資料検索のコツをご紹介します。なお、このテーマは Microsoft office Stream 内のチャンネル「図書館ウェビナー」でも説明動画をご覧いただけます。(動画名:「ちゃんと探せてます? 図書館所蔵資料」<https://web.microsoftstream.com/video/0d94dc43-6a8d-47ee-a819-d9ec55f3de8d>)



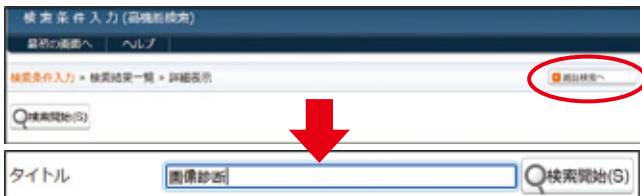
【所蔵資料検索の入口】

図書館ホームの上部タブ、左から3番目に「所蔵資料検索」があります。スマホでは左上の三本線をクリックすると中に出てきます。

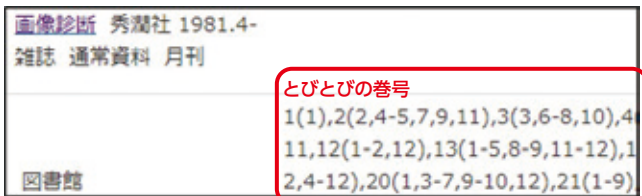


【検索のコツ】

①雑誌の検索には画面右上の「雑誌検索へ」を使う。
雑誌のタイトルがわかっている場合は、画面右上のオレンジ色矢印「雑誌検索へ」を使います。いきなり検索ボックスへ入れると、図書と雑誌がまとめて検索され、雑誌の情報がなかなか出てきません。「雑誌検索へ」を使うと、雑誌タイトルのみが検索され、読みたい雑誌の所蔵を効率よく調べることができます。



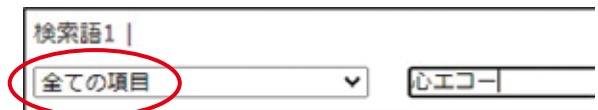
②雑誌があっても初号から最新号まで揃っているわけではない。
雑誌タイトルが検索できると、その雑誌が最新号まで全て揃っているように思いますが、検索結果をよく見ると所蔵巻号がとびとびになっていることも多いです。読みたい巻号があるかしっかり確認しましょう。



③雑誌の所蔵が無ければ電子ジャーナルを探してみる。
雑誌は電子版で購読しているものも多いです。冊子でなければ電子を探してみましょう。



④図書の検索には「全ての項目」を使う。
検索ボックスには、検索項目をプルダウンで指定できる機能があります。「タイトル」や「著者名」など、さまざまな項目を指定できますが、完全一致していなければ検索できない場合がありますため、検索項目の指定はお勧めしません。検索するときには「全ての項目」のまま検索しましょう。



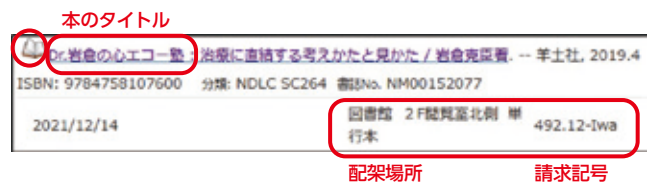
⑤検索結果のマークに注目する。
見開き本のマークは図書を表していますが、そのほかのマークもあります。
CDのようなマークの場合は電子ブックです。書名をクリックし、画面右下の「参照 URL」から電子ブックをご覧いただけます。



また雑誌のマークは、特集名が前方、雑誌タイトルや巻号が後方という表示になるため、雑誌タイトルや巻号までメモする必要があります。



⑥タイトル・場所・請求記号の3つをメモする。
読みたい図書が見つかったら、図書のタイトル、配架場所、請求記号の3つをメモします。ISBN や書誌ナンバーは図書を直接探す情報にはなりません。また、配架場所が「教室ほか」となっているものは教室保管のため、「図書館」となっているものを探しましょう。



⑦「貸出中」の本は予約ができる。
所蔵資料検索をしていると、「貸出中」と出てくるものがあります。貸出中のものはメインデスクで予約することができますので、ご希望の方は図書館2階メインデスクへお越しください。

所蔵資料検索のコツ、いかがでしたか? ちょっと知っていれば格段に検索がスムーズになるポイントを集めました。日頃の検索にお役立てください。

また、図書館資料やデータベースをご活用いただけるように、検索方法などを解説するウェビナーを開催しています。今までのアーカイブ動画を Microsoft office Stream よりご覧いただけますので、検索の際にはこちらもぜひご参照ください。



1. 在宅医療部会

在宅医療は、情報通信、ロボット、機能材料、機能性食品など新技術の応用の場としても産業界から注目を集めております。このため、MBT コンソーシアムは在宅医療部会を設立し、新しいビジネス構想や医学的知識に基づいた製品に関する検討を行うこととしました。本部会では以下を目的に活動をしております。

- ①在宅医療の現状と課題（技術的、法的）を調査把握し、関係者の情報共有を図る。
- ②在宅医療のための産業創生やまちづくりの検討を行うことを目的とする。
- ③より安価に、安心して在宅で医療を受けることのできる機器やシステムの実現を目指すため、医療従事者とコンソーシアム会員企業が共同に必要な仕様や適正なコストを検討する。

2. 経団連「第1回地域協創ウェビナー」

2月9日、日本経済団体連合会（経団連）は「第1回 地域協創ウェビナー―「地域協創アクションプログラム連絡会」の設置に関する説明会―」を開催しました。これは「地域協創アクションプログラム」（2021年11月公表）の実行にあたり、連絡会を設置することとしたため、同会の概要やアクションプログラムに基づく今後の活動方針等を経団連会員企業に向けて説明するものです。同地域協創ウェビナーでは、地域協創アクションプログラム連携パートナーとして細井理事長が、「医学による地域協創・産業創生（MBT）の全体像と地域活性化のための医学的に正しいコロナ対策の推進」の演題で講演を行いました。

3. MBT 難病克服キャンペーン

(1) 第2回難病克服支援WEBセミナー

3月5日、約250名の参加者を集め、第2回難病克服支援WEBセミナーが開催されました。本セミナーでは、日本介助犬協会専務理事の高柳友子氏から、手足が不自由で車椅子生活の患者に、24時間寄り添って生活を支援する介助犬のお話をさせていただくとともに、介助犬のデモンストレーションをしていただきました。また、東京女子医科大学の石黒久美子氏からは筋ジストロフィー治療や研究に携わる医療現場のお話と患者家族視点からのお話をさせていただきました。



高柳友子氏



石黒久美子氏

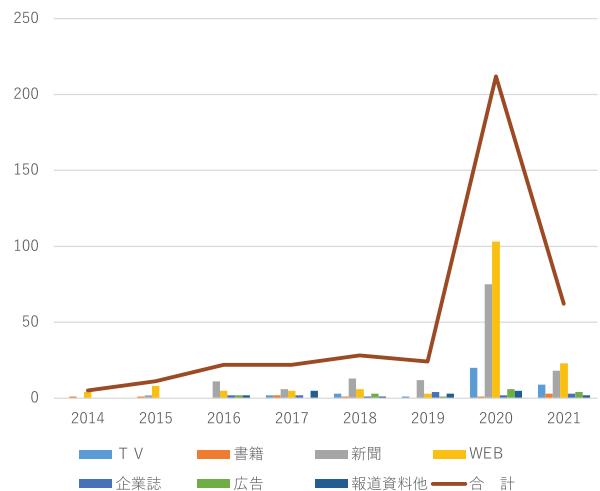
(2) けいはんなプラザメインホールにてMBT映画祭受賞作品上映

3月19日、けいはんなプラザメインホールにて、MBT映画祭の4本の受賞作品（最優秀賞「バリアフルライフ」、優秀賞「文字盤の先に」、特別賞「パンにジャムをぬること」、特別賞「それでも洗う」）を上映いたしました。MBTコンソーシアム・MBT研究所では、今後も機会をとらえて各地でMBT映画祭受賞作品の上映を行うことにより、難病への理解促進に務めていくこととしております。

4. MBTの広報

(1) MBTのメディア露出数の推移

MBTのメディア露出はCOVID-19の流行に伴う医療機関への関心の高まりの影響もあり、2020年に大幅に増加しました。2016～2019年が20数件だったのに対し、2020年は212件となりました。2021年は62件となりましたが、高止まりの傾向にあります。



(2) MBT書籍刊行

MBT関連の書籍が2冊刊行されましたのでご紹介いたします。昨年10月、梅田智広研究教授が「健康寿命を最大化する挑戦」を出版されました。また、本年2月には細井理事長が「MBTなぜ単科の医大に全業種から200社が集まったのか？」を出版されました。両書籍を合わせればMBTの現在の状況を俯瞰できると考えます。



健康寿命を最大化する挑戦



MBTなぜ単科の医大に全業種から200社が集まったのか？

国際交流センターだより vol.7

「第3回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」を開催しました

2月14日に開催した「第3回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」では、シンガポール工科デザイン大学准教授の橋本道尚先生を講師にお迎えし「3D printing for soft and biological fluidic devices」と題して英語でご講演頂きました。当日は大講堂並びにZoomで同時配信で開催し、医学科3年生が参加しました。



シンガポールから講演中の橋本准教授

シンガポール工科デザイン大学 准教授 橋本 道尚

シンガポール工科デザイン大学の橋本道尚です。この度は貴大学セミナーでの講演の機会を頂きありがとうございました。私自身のキャリアを振り返ると、大学学部で留学した後に、学士入学で医学部に入学を目指すことも検討していましたが、紆余曲折あり研究者を目指すことになりました。医学系→理学系→工学系と自身の興味が変わっていき、現在は工学系技術の医療応用が我々の研究チームの研究の方向性になっています。20年経って、高校生の頃の自分の興味とまた繋がったのは面白いと思っています。

20代(あるいは30代でもそれ以降でも)自分はこれをやるべきだという思い込みにとらわれず、自由にいろんなことを試してみるのが良いと思います。医学・看護学の学位は非常に専門性が高いので、学生の皆さんが今までのご自分の経験や知識で想像できるよりも、もっと大きな可能性に満ちあふれていると思います。日本国内にも日本国外にも多くの機会が転がっています。誰も思いもよらなかったような将来を開拓して、私にも話を聞かせてください。

Webpage: www.fluidics.org / Twitter: @SoftFluidics

精神医学 准教授 牧之段 学

シンガポール工科デザイン大学の橋本道尚先生に講師の労を賜りました。橋本先生はマイクロ流体力学をご専門とされる方で、本セミナーの前半部では3Dプリンターによるデバイス作製の最先端をご紹介頂き、分野横断的な医工連携の大きな可能性を感じ取って頂いたのではないのでしょうか。後半部では、ご自身の経験をもとに海外留学の意義や価値を教えてくださいました。橋本先生は米国大学院学生会などの運営に携わり、後進の海外留学を熱心にサポートされてきた方ですので、本学学生にも国際的な舞台で学ぶことや働くことを選択肢をご提示頂きたく講演を依頼しました。橋本先生はSNSなどで度々「グローバル人材になるには〇〇が必要です」などと冗談交じりに発信されるのですが、実体験に基づいた助言は的確です。本セミナーに参加した学生たちがグローバル人材となる一助になったのなら幸いです。



牧之段准教授による司会進行

学生の声

医学科4年 吉田 暁彦

今回の英語セミナーを通して留学に対する考え方が変化したように感じています。橋本先生は、ご自身のしたいことの変化にともなって、様々な大学で研究されていました。このような主体的にキャリアを重ねていく姿に感銘を受けました。自分は英語が得意でないことなどの理由で、海外でキャリアを重ねることは考えてもいませんでした。しかし、橋本先生の講義を通して、将来海外で仕事や留学ができる機会があった際には、言語などの理由で道を断つのではなく、柔軟に主体的に選択していきたいと思いました。この度は、このような考える機会を設けていただきありがとうございました。



医学科4年 大上 侑里子

橋本先生のユニークな研究内容と研究者としてのキャリア形成のお話の中で特に先生のサバティカルの経験が印象的でした。約1年休みをとって世界の研究所を転々とするお話から、独自の技術を持つ研究者だからこそ世界のどこでも活躍できる面白さと、またコミュニケーションをとるための英語の重要性を感じました。私達医学部生は卒業と共にMDを取得しますが、その医学知識を研究、医療工学、政策決定などの医師以外の道にも応用することができるため、自分のしたいことを考え主体的にキャリアを考える必要があることを強く意識することができました。



海外リサーチ・クラークシップ成果報告①：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップ参加後に研究活動を継続している本学学生の研究成果をご紹介します。佐々木俊秀君は筆頭著者で、長田理瑚さんは共同筆頭著者で、それぞれ論文が発表されました。ご指導を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

International Journal of Clinical Oncology

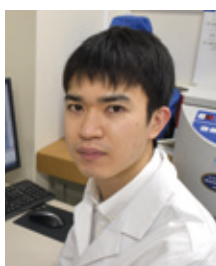
Integrative analysis identifies activated anti-tumor immune microenvironment in lung metastasis of pancreatic cancer
佐々木俊秀 (筆頭著者)

DOI<https://doi.org/10.1007/s10147-022-02131-x>

2022年2月10日 オンライン掲載

医学科6年 佐々木 俊秀 (消化器・総合外科学所属)

この度、膵癌肺転移における抗腫瘍免疫活性化の解明についての論文を筆頭著者として発表させて頂きました。2年次に台湾でのリサーチ・クラークシップを終えた後も、消化器・総合外科で研究活動を続けさせて頂いており、本研究はその一環として行いました。コロナ禍



で一時は大学に来ることさえ出来なくなるなど、ここに至るまでには様々な困難がありました。論文の形で研究成果を発表できたのは、皆様のお力添えがあってこそと存じます。庄 雅之教授を始めとして消化器・総合外科の先生方には、ご多忙中、夜間・休日も厭わず丁寧にご指導頂き、心より感謝申し上げます。今回の経験を活かして、今後も研究活動に励んで参ります。

Frontiers in Cell and Developmental Biology

C9orf72-derived proline:arginine poly-dipeptides modulate cytoskeleton and mechanical stress response

長田理瑚 (共同筆頭著者)

DOI<https://doi.org/10.3389/fcell.2022.750829>

2022年3月23日 オンライン掲載

長田 理瑚 (未来基礎医学所属/2022年3月 医学科卒業)

「C9orf72 遺伝子由来のプロリン：アルギニンポリジペプチドによる細胞骨格とメカニカルストレス応答の調整」に関する論文の共同筆頭著者としてご掲載いただきました。2年生時に海外リサーチ・クラークシップに応募したことがきっかけで、元々興味を持っていた筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の研究プロジェクトに参加させていただくことができ、充実した研究活動を行うことができました。研究活動を始めた時は、研究の進め方ももちろん、論文を読むこともままならず、大変なことも多くありましたが、同時に研究の面白さも体感することができました。ご指導をいただいた、森英一朗先生、塩田智先生始め共著者の先生方、未来基礎医学の先生方にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

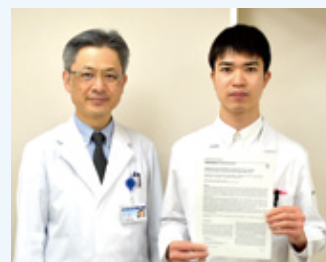


MESSAGE

消化器・総合外科学 教授

庄 雅之

6年生の佐々木俊秀君の筆頭論文がこの度IJCOに掲載されました。自分のこと以上に嬉しく思います。本研究は、膵癌の肺転移が肝臓や腹膜転移と比較してなぜ予後がいいかという Clinical Question に対して、基礎研究によって機序の一端を明らかにした貴重なものです。佐々木君は2年生の国立台湾大学への海外リサーチ・クラークシップを契機に、帰国後も継続して学内での研究を根気強く着実に進めてきました。本論文は研究成果の一つに過ぎませんが、これまでの彼の不断の努力には本当に頭の下がる思いです。研究を指導してきた台湾大学の Yang 教授、消化器・総合外科の西和田、中川とともに、佐々木君の今後の成長とさらなる飛躍を心から楽しみにしています。



MESSAGE

未来基礎医学 准教授

森 英一朗

長田さんは、2年次に開催された海外リサクラの前に、未来基礎医学での事前実習を希望されました。長田さんがまだ2年次の春頃、私が2017年4月に奈良医大に教員として赴任したばかりの頃に、「筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の研究に興味がある」といって教室を訪れました。あれから5年が経過しました。この間、2021年9月に Nature Communications 誌に発表した論文や、他3報の論文に共著者として積極的にプロジェクトに参画してきました。今回の論文では、共同筆頭著者としてプロジェクトの中心的役割を担い、特にプロジェクトの立ち上げに大きく貢献しました。卒後も、進まれる分野での活躍を期待しております。



国際交流センターだより vol.7

海外リサーチ・クラークシップ成果報告②：厳糧賞受賞報告

海外リサーチ・クラークシップOBとして活躍を続けている長田理瑚さんが、令和3年度卒業式で「医学科同窓会厳糧賞」を受賞しました。

長田 理瑚 (2022年3月医学科卒業)

この度は厳糧賞という栄誉ある賞を受賞することができ、誠に光栄に思います。2年時の海外リサーチ・クラークシップへの参加をきっかけに未来基礎医学で本格的な研究活動を開始しました。研究活動を始めた当初は右も左も分かりませんでしたが、未来基礎医学、脳神経内科学の先生方にご指導をいただき、多くのことを学び、研究の面白さ、奥深さを知ることができました。お世話になった先生方に受賞の報告ができることを嬉しく思います。この経験を糧に今後も精進して参ります。



留学報告：ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）

令和3年度医学科同窓会厳糧学術奨励賞（海外留学助成金）を受賞され、現在ベルギーに留学中の酒井和哉先生にお話を伺いました。

酒井 和哉 (前所属：輸血部) 留学期間：2021年7月～

2021年7月よりベルギーのKU Leuven, Laboratory for thrombosis research (Prof. Dr. Karen Vanhoorelbeke) にて postdoctoral fellow として勤務しております。留学先の研究室は希少な血栓症である血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) の基礎研究の分野で世界をリードしています。現在は日本人後天性 TTP 患者における ADAMTS13 自己抗体の抗原エピソード解析や、難治再発性後天性 TTP に対する免疫細胞療法の開発などのプロジェクトに従事しております。研究だけではなく、学部生への実験やレポート作成指導など教育に従事することもできており、非常に充実した日々を過ごしています。

留学するにあたっては COVID-19 pandemic の影響も大きかったのですが、何よりも前任者がいなかったため、留学準備から現地での生活のセットアップに本当に苦労しました。英語圏のメジャーな留学先ではありませんので、日本人のコミュニティは研究室のある Kortrijk 周辺にはありませんし、今の所ベルギーで日本人に遭遇した記憶はありません。また滞在中の給与を確保するための、留学助成の奨学金 (Grant) の獲得は留学するにあたって最大の難関でした。幸い資金源を確保することができたため、長期滞在ビザの取得した後に渡欧することができました。しかし、アパート探しや給与受け取りのための銀行口座開設、健康保険の加入など多くのことを現地の公用語であるオランダ語の公的文書でこなす必要があり、同僚に手伝ってもらいながら苦労しながら契約したのは記憶に新しいです。

“Ik hou van Belgisch bier en frietjes met mayonaise!” ベルギーと言えばチョコやワッフルが日本では有名と思いますが、ベルギービールとフライドポテトも忘れてはいけません。1000種類以上のビールと二度揚げしたフライドポテトは最高のコンビネーションです。世界遺産を有する多くの都市にも電車で1時間程度でアクセスできますので、週末は非常に贅沢なヨーロッパの風景を楽しんでいます。最後に、快く研究留学に送り出してくださった輸血部の松本教授はじめ、学内の多くの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。



ブッシュ大統領が宿泊した Kortrijk 市内のホテルにて、左から Prof. Karen Vanhoorelbeke, Prof. Simon De Meyer, 酒井先生



近隣の観光都市 Brugge のマルクト広場にて

安全保障輸出管理への取り組み vol.5

みなし輸出管理制度の改正に伴う学内の確認体制について

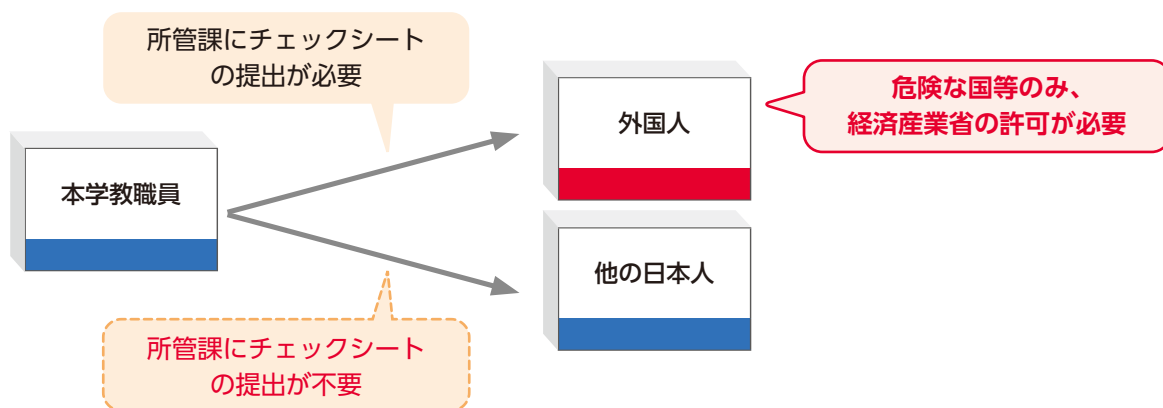
安全保障輸出管理とは、日本を含む国際的な平和及び安全の維持を目的として、武器や軍事転用可能な貨物（装置・試料等）及び技術が大量破壊兵器の開発等を行っている国やテロリスト等の手に渡ることを防ぐための管理制度です。安全保障輸出管理では「貨物の輸出・技術の提供」が対象となり、大学における研究活動も規制の対象となる可能性があるため、本学でも安全保障輸出管理に取り組んでいます。

令和4年5月1日付の制度改正によりさらに対応を求められており、学内の確認体制が以下のように強化されます。

制度の改正について

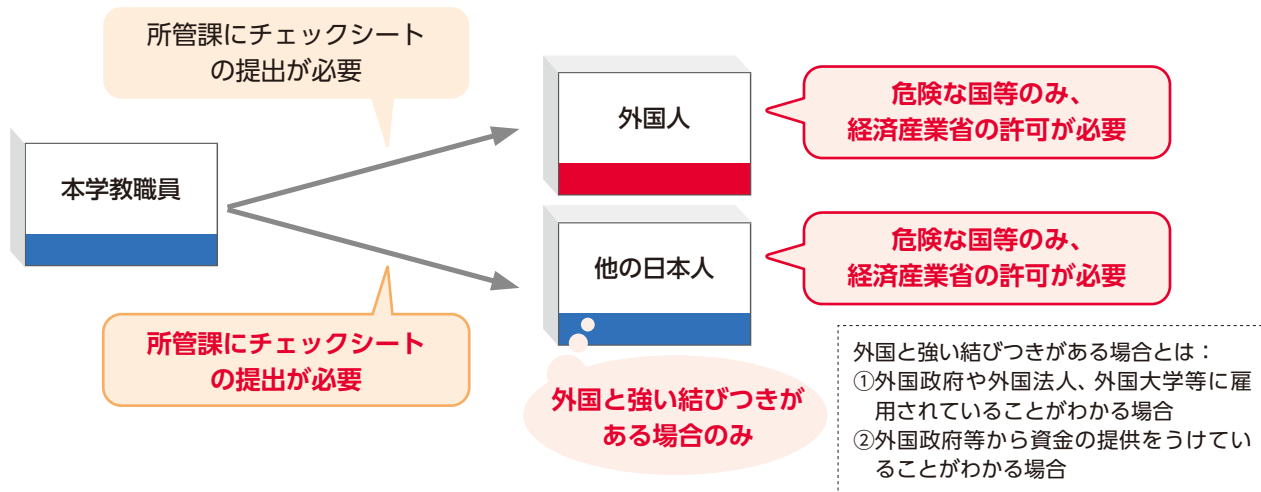
現行

技術・物の提供



改正後 (令和4年5月1日～)

技術・物の提供



注① 危険な国等とは：イラン、イラク、北朝鮮等8ヶ国及び組織 注② 他の日本人とは：国内に住所を有する日本人及び入国後6ヶ月経過した外国人等

制度の改正に伴い学内で行わなければならないこと

- ①技術・物の提供の場合（学会発表、論文発表、試料輸出等）
- ②受入の場合（外国人留学生・研究者等）

本学教職員が、取引の相手先である「他の日本人」の外国との強い結びつきについて確認を行い、該当する場合は、外国人への提供の時と同じように「事前確認チェックシート」を所管課に提出する。

【確認方法】（経産省ガイドライン要約）

提供までのやりとりの中で、取引相手が外国と強い結びつきがあるかどうかを確認する。あえて通常の書類以外の文書等を徴収する必要はない。

【お問合せ】安全保障輸出管理事務局（国際交流センター）内線 2479 【規程・様式等】学内ホームページ>国際交流センター>安全保障輸出管理

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

1 重点研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、重点研究2016推進計画に定める重点研究課題として、『健康長寿大規模コホート研究』『超高齢社会のためのMBT（医学を基礎とするまちづくり）の研究』を推進しています。

このたび12月23日、2月22日、3月29日に次の研究の進捗状況報告会を開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス対策として教職員にWeb配信による同時中継で実施しました。

「手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究」	麻酔科学	教授	川口 昌彦
「超高齢社会のためのMBT（医学を基礎とするまちづくり）の研究」	MBT研究所	MBT 担当教授	細川 洋治
「奈良県における循環器医療の質の向上と循環器病地域包括ケア構築に資する実態調査」	循環器内科学	教授	斎藤 能彦
「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾



麻酔科学 川口昌彦教授



MBT研究所 細川洋治 MBT 担当教授



循環器内科学 斎藤能彦教授



疫学・予防医学 佐伯圭吾教授

2 研究力向上支援センターに上村URAが着任されました

研究力向上支援センター URA 担当特命准教授 上村 陽一郎

桜がきれいに咲いた4月1日より研究力向上支援センターに着任しました上村です。前職は理化学研究所生命機能科学研究センターで細胞性粘菌の走化性機構を研究していました。これまでは研究者として支援を受ける側でしたが、これからは奈良県立医科大学の皆様が快適に研究していただけるよう尽力していく所存です。業務にあたって皆様にご協力いただくことも多いと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。何か必要なことがございましたらお気軽にお声がけください。



先端医学研究支援機構

看護部の紹介

『特定看護師の活動推進に取り組んでいます』

特定行為研修を修了した看護師（以下「特定看護師」）は、特定行為を含む医療やケアをタイムリーに提供すること、チーム医療のキーパーソンとして医療の発展に資すること、そして病院内のタスクシフトを推進することが期待されています。本学では、2016年に特定看護師の養成を開始しました。2022年4月時点で、25名の特定看護師が、ICUや高度救命救急センター、手術室から一般病棟まで幅広く活躍しています。しかし、特定看護師の活動をさらに推進するためには、患者・家族や病院職員への周知がまだまだ不足していることが課題です。

リソースナースセンターは、特定看護師の活動を管理・推進することを目的に、2020年4月に設立されました。中心となって病院ホームページやポスター、入院案内パンフレットに特定看護師の活動について掲載するとともに、2021年12月には「第1回特定看護師活動報告会」を開催しました。

今後も広報活動を強化して特定看護師の活動を推進すると

もに、患者や家族の皆様に対して安心で安全な医療やケアの提供を進めてまいります。



第1回特定看護師報告会

人材交流在宅看護教育プログラムに参加して

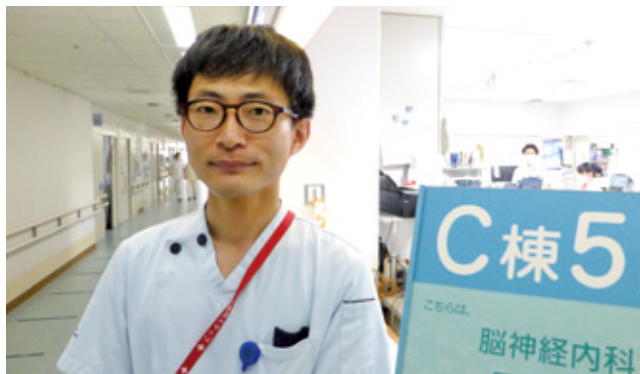
C棟5階 山田 浩史

訪問看護師・病院看護師人材交流在宅看護教育プログラムは、在宅看護のリーダーを育成するために、病院看護師および訪問看護師を対象とした三ヶ月間の人材交流留学制度です。互いの看護の理解を深め、顔の見える関係をつくり地域包括ケアシステムの構築を担う人材育成を目的としています。

今回、訪問看護を経験し、『病状・病態から考えられる医療・看護の視点』と、『ADL・IADLから考えられる生活・ケアの視点』という二つの視点を持ち、見極めながら介入していく必要性を学びました。

特定機能病院として地域の医療を支える看護師と、地域で生活を支える訪問看護師が、介入の視点の違いを理解した上で共有し関わって行くことが重要と考えます。

訪問看護師として関わった経験から、『互いに顔の見える関係性』が築けたことを活かして、今後は病院と在宅の『相談・調整・連携』がとれる看護師として、『在宅看護力』を発揮できるよう努力していきたいと考えています。



C病棟7階 藤本 ひとみ

内科疾患は、継続したセルフモニタリングが必要であり行動変容できるように関わっていく必要があります。そのため、患者と在宅支援者をつないでいたら安心という思いがありました。

今回人材交流在宅看護教育プログラムに参加して多様な利用者の同行訪問・単独訪問、在宅側から退院前カンファレンス・初回訪問・ケア会議を経験することが出来ました。治療優先の病院と生活中心の在宅の違いを理解し、病院側で解決しておくべき事、依頼したいことを明確化することの重要性を学びました。また、病院・在宅間の情報共有・伝達・連携の難しさを痛感しました。一方で訪問看護師と病院側の看護師が意見交換しやすい環境を作ることが出来たのではないかと感じています。この関係性を大切に、入院は患者自身の人生の一部であり一つの通過点としてとらえられるようなサポートを出来る途切れない看護を目指したいと考えています。



働き方改革だより

改正医療法（医師の働き方改革関連）の成立に伴い、本学だけではなく兼業先（関連病院等）での勤務時間も含めて時間管理を行うことが求められ、2024年以降には医師の時間外休日労働時間に上限規制が適用されます。

▶ 医師の時間外・休日労働時間の上限が年間960時間になる??

年間960時間（月80時間）の時間外労働が原則の上限として定められます。（いわゆるA水準）

…この時間には外勤先での勤務時間数（毎週8時間従事した場合、年間416時間）を含める必要があります。

⇒**医大の時間外労働にも制限がかかり、これまでの診療体制の見直し**が求められることとなります。

本学の対応 ▶ 特例水準指定に向けた準備を進めています（時短計画を整備中）

原則の上限時間以上に勤務するためには**医師労働時間短縮計画**を作成し、**県に特例水準（いわゆるBC水準）の申請**をしなければなりません。計画には労働時間数を把握し、健康確保措置の取組状況や予定を記載する必要があります。特例水準として認められれば、**年間1860時間（月155時間）**までを上限として勤務することができますが、健康確保のため、**追加的健康確保措置**を講じることが義務となります。

▶ 追加的健康確保措置 連続勤務時間制限・勤務間インターバル・代償休息とは??

- ・始業から**24時間以内に9時間の連続した休息時間**（15時間の連続勤務時間制限）
- ・始業から46時間以内に18時間の連続した休息時間（**28時間の連続勤務時間制限**）

⇒上記の連続した休息時間が確保できない場合は、翌月末までに代償休息を取得できるよう配慮が必要

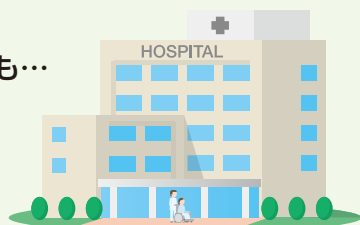
具体的にはどうなる？

本学医師は…

- ・外勤先での夜勤あけに、**医大での勤務ができなくなる**
- ・夜勤明けに、**関連病院の外勤に行けなくなる**



本学でも…



- ・外来や病棟での**チーム制導入**
- ・日勤業務の**タスクシェア**
- ・他職種への**タスクシフト** など

関連病院でも…



- ・派遣医師の**シフト調整** など

地域医療を維持していくため
順次対応をしていく必要があります

COVID-19 蔓延下における放射線治療の現状

放射線腫瘍医学／医療情報部部長 玉本 哲郎

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により、現在でも病院の通常診療は大きな影響を受け、2022年3月現在、日本国内でも実際に放射線治療への影響がみられている。放射線治療に紹介される患者、治療中の患者、あるいは治療を遂行する側の医療スタッフは常に感染のリスクに曝されており、感染者 (陽性者) と濃厚接触する、すでに不顕性の感染者となっている、あるいは発病するリスクは誰にでも存在し、実際に感染例も報告されている。放射線治療は日本国内では年間約30万人が受けているが、COVID-19 蔓延下では病院全体の受診患者数が減り、必要ながん治療を受けられていない状況が危惧された。一方、外科手術に関わるリスクが高いことやICU・HCUなど病室がCOVID-19重症肺炎への対応に充てられることなどにより、手術症例が減少し、放射線治療症例が相対的に増加することも考えられた。このような状況において、院内感染の防止、特に放射線治療中の患者の感染防止と医療従事者の感染防止は、施設の放射線治療機能を維持し、患者の予定された放射線治療を確実に遂行するうえで極めて重要であった。日本放射線腫瘍学会 (JASTRO) からの提言 (Ver.1.4) は、現時点でのエビデンスおよび主要学会のガイダンスを参考に、主としてエキスパートの意見をもとに放射線治療に携わる医療者が注意すべき項目をまとめたもので、本提言の各項目を実践して患者や社会に放射線治療を安定的・継続的に提供してゆくためには、特に「医療従事者の感染リスクを過小評価してはならないこと」、また、「医療従事者を感染から守ることが最優先事項の一つであること」が強調されている。また、『新しい生活様式』が提唱される中、本提言の一部はポストコロナの新しい放射線治療の様式として、がん診療に実装される可能性があることが期待されている。

日本放射線腫瘍学会 (JASTRO) からの提言 (Ver.1.4) は、以下の7つのパート、①患者 (確定例) および疑似症患者に対しての放射線治療の適応 ②各論として、頭頸部癌、食道癌、肺癌、乳癌、前立腺癌、子宮頸癌、緩和照射、粒子線治療、小線源治療について、③患者および医療従事者の個人用防護具では、患者と医療従事者のそれぞれの対応について、④放射線治療部門内での時間的、空

間的区分化について、⑤放射線治療部門の医療従事者が感染した場合の対応について、⑥補足、⑦引用、から構成されている。①の内容として、患者 (確定例) および疑似症患者に対しての放射線治療の適応は、一般に治療の中断 (あるいは開始の遅延) は可能な限り避けるべきであるが、治療中 (あるいは治療開始予定) の患者がCOVID-19陽性となった場合は、他の患者へ感染が拡大する、ならびに医療スタッフの感染拡大により施設の放射線治療機能が低下するリスクを低減し、さらに放射線治療の全停止の回避を最優先し、原則として治療は一旦中止 (または開始延期) とする。現状では、どの施設でも緊急性の高い放射線治療の場合には感染症制御部門と連携し病院としての判断を求めるなどの対応を検討する必要がある。また、②の内容については、肺癌の例を示す (図1)。一般的に根治目的での標準治療が化学放射線治療の場合、放射線治療が通常分割法 (1.8-2Gy/日) となっているため、放射線治療期間の短縮のための1回線量を増加した寡分割法の併用エビデンスがなく、対応ができないことが問題となっている。

当院でも上記の提言を参考にしつつ、当院の放射線治療装置 (リニアック) のすべてがExacTrac® (Brainlab社) というスループットのよい高精度放射線治療システムを搭載していたこともあり (図2)、他病院で行われていた治療患者数の制限については、幸い現在まで行うことなく、放射線治療部門の業務を継続している。ただし、日本国内で緊急事態宣言が出て以降は、院内感染のリスクの低減および放射線治療部門の機能維持を優先して、リニアックの稼働を2台体制で行ってきた。今後は第6波以降の感染の状況もみながら、もとの3台体制に戻すことで、現在常態化している17時以降の放射線治療の実施を極力減らし、スタッフの勤務時間の適正化をしていく必要がある。

参考文献:

- 1) COVID-19パンデミックにおける放射線治療 JASTRO 提言 (第1.4版) 日本放射線腫瘍学会 COVID-19 対策アドホック委員会・コロナ対策実行グループ. https://jastro-covid19.net/data/jastro-covid19_proposal_1_4/pdf

図1

COVID-19 蔓延下における放射線治療の対応 -肺癌の場合-

はじめに

- 発熱や呼吸器症状を伴う肺癌患者においては、COVID-19陽性の可能性も考慮し、適切な感染防護策を講じる必要がある。
- 胸部への放射線治療がCOVID-19肺炎の増悪因子になり得るかどうかは明らかではないが、少なくとも放射線肺臓炎とCOVID-19肺炎が併存すると状態悪化の可能性があり、放射線治療中および放射線治療後の肺癌患者に対する感染対策と放射線肺臓炎発症時の対処は十分に行うべきである。
- 放射線肺臓炎とCOVID-19肺炎との鑑別は、画像所見や臨床所見を参考にして総合的に判断すべきである。

省略できる病期 / 組織型と代替手段

肺癌に省略可能な病期は存在しない。

延期できる病期 / 組織型と延期可能な期間

下記症例において4-6週程度の治療開始の延期を検討してもよい。

- 非小細胞肺癌に対する術後照射
- 小細胞癌全脳予防照射 (MRIを用いた経過観察が可能)
- I期肺癌については、腫瘍の増大速度や腫瘍の所見 (サイズ、GGO) などを勘案し、個々の症例毎に延期を検討してもよい。

推奨される寡分割照射での分割方法

緩和照射以外では推奨される寡分割照射はない。

図2



ExacTrac® 搭載の TrueBeam STx with Novalis® Radiosurgery (第3世代のNovalisの国内1号機)

1.20

MBT 研究所運営会議を開催しました

MBT 研究所では、活動についての進捗報告、各種企画調整を行っております。運営会議では、1月8日に開催した MBT 映画祭の開催報告や課題の洗い出し、およびその解決策の検討を行いました。また、来年も映画祭を開催する事が決定しました。

その他、会議の中では経団連との連携事業である「地域協創アクションプログラム」のテーマについて詰めました。経団連では地方創生の実現に向けて各種団体と連携し、様々な取り組みを行っております。今後、経団連との調整の中で連携活動についての詳細を決定していきます。



会議の様子

1.25
2.21
3.23

大和平野中央スーパーシティ構想検討会が開催されました

奈良県が主催する大和平野中央スーパーシティ構想検討会が奈良県コンベンションセンターで開催され、MBT も参画しました。スーパーシティ構想と MBT の研究成果を繋げるため、細井理事長がメンバーに参加しています。

検討会では、中央官公庁や専門家からスーパーシティ構想の情報提供がありました。

意見交換会では、細井理事長・学長からは、「MBT コンソーシアムには 220 社を超えるあらゆる分野の企業が参加しており、スーパーシティ構想と連携できる取組メニューを豊富に備えている」として、そのメニューの一覧を紹介し、またこれまでの MBT 活動の成果を報告しました。

奈良におけるまちづくりに、MBT は積極的に関与していきたいと考えています。



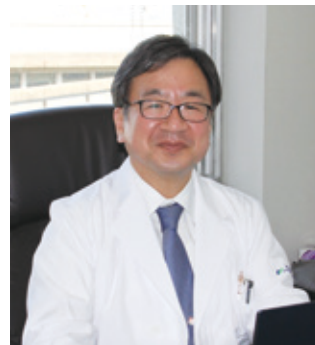
検討会の状況

2.2

令和3年度FD・SD講演会を開催しました

女性研究者・医師支援センターでは、教育開発センター、人事課と共催で FD・SD 講演会を Web 開催しました。産婦人科学 木村文則教授より「不妊治療と仕事の両立」についてご講演をいただき、その後、人事課木下信係長から不妊治療のための休暇新設状況等について報告がありました。録画視聴も含め 170 名のご参加があり、参加者からは「不妊治療の第一歩から学ぶことができ勉強になりました」、「仕事仲間の支えや休暇制度の大切さがありました」、「今回の複数部署にわたる講演形式がとても良かったです」といった感想が寄せられました。

女性研究者・医師支援センターでは、平成 31 年から不妊治療中の女性研究者に研究支援員を配置する等の研究支援を行い、不妊治療中の職員からの相談にも応じています。研究支援制度等にご質問のある方は、須崎康恵マネージャー（内線 2525）までお問い合わせください。



産婦人科学 木村文則教授



木下信係長（現経営企画課）

2.9

経団連「地域協創ウェビナー」に参加しました

一般社団法人日本経済団体連合会が主催する「地域協創ウェビナー」で細井理事長が MBT 活動に関する講演を行いました。

経団連は、地方創生の実現に向けてさまざまな団体と連携し社会貢献活動を行っています。本学及び MBT コンソーシアムもその連携パートナーの1つであり、「医療・育児・介護関連」の分野において協働で活動を行っています。

今回の講演会では、5つの連携パートナーが各自の取組内容の紹介を行いました。本学からは細井理事長・学長が「医学による地域協創・産業創生 (MBT) の全体像と地域活性化のための医学的に正しいコロナ対策の推進」と題し、MBT の取組を紹介しました。

今後、医学の知識を基に経団連、連携パートナー等と地方創生に向けた連携を図っていききたいと思います。



講演する細井理事長

2.17

MBT 映画祭の入賞作品を YouTube で公開します

MBT 研究所運営会議では、「難病克服支援 MBT 映画祭 2021」での最優秀賞、優秀賞、特別賞の4作品や映画祭のダイジェストを YouTube で公開することや「第2回難病克服支援 WEB セミナー」や「大和平野中央スーパーシティ構想の提案」、経団連の「第1回地域協創ウェビナー」に関して議論を行いました。

また、細井裕司理事長の新書籍「MBT なぜ単科の医大に全業種から 200 社が集まったのか?」を、Amazon や三省堂書店等の全国書店で販売するとの報告もありました。

MBT は様々な取り組みを行い、今後も社会貢献に努めていきたいと考えています。



新書籍の発刊



MBT 映画祭入賞作品公開について報告

2.27

臨床研究県民公開講座をハイブリッド形式で開催しました

臨床研究センターは、奈良県コンベンションセンター天平ホールにて、臨床研究県民公開講座「県民とともに創る未来への医療—がんと生活習慣病—」を開催しました。

奈良県および奈良市の後援を受け、オンラインと会場とのハイブリッド形式により実施し、多数の参加がありました。また、会場内の感染症対策として、検温・消毒薬の設置、席間隔の確保に加えて、MBT コンソーシアムの会員である(株)ドゥエルアソシエイツ様より光触媒抗菌 空気清浄機の無償貸与を受け、会場内に2台設置しました。笠原正登教授(臨床研究センター)よりご挨拶いただき、浅田潔講師(臨床研究センター)「くすりが出るまでの道のり」についての話に続き、武田真幸教授(がんゲノム腫瘍内科学)からは、「がんゲノム医療最前線」、浅原哲子教授(京都医療センター・名古屋大学)からは、「コロナにまけない! メタボ解消術」の講演がありました。後日(3/1)「県政フラッシュ」にて公開講座の様子が放映されました。



「県政フラッシュ」で放映

2.25

TQM 大会表彰式を行いました

附属病院においては、職員自らが日頃感じている具体的な課題や問題点について、主体的に課題解決に取り組むことで、職員の改善意識の向上を図り、さらに活動成果を病院の業務などに生かし医療・サービスの質を継続的に向上させていくことを目的として、平成27年度よりTQM活動(Total Quality Management (総合的質管理))を推進しており、その活動成果を発表する場として、毎年TQM大会を開催しております。

今年度で7回目となる本大会は、新型コロナの影響もあり、昨年同様 WEB 開催で行いました。参加した全 14 チームには、各チーム趣向を凝らした活動成果を発表する動画を作成いただきました。日々の業務の中から生まれた課題設定・改善行動と各チームの特色が見え、他職種にも参考となる内容も含まれていました。医療・教育質向上対策プロジェクトメンバーがその動画を視聴、審査を行い、各賞が決定され、2月25日に表彰式を行いました。表彰チームは以下のとおりです。

- | | | |
|-------------|-----------------------------|--------|
| 1位 | 打倒、コロナ!!! 患者ファースト“ONE TEAM” | C棟8階 |
| 2位 | The Standard. | 中央内視鏡部 |
| 3位 | Gentle endoscope. | 中央内視鏡部 |
| 院長賞 | バースセンター 結愛 | E棟5階 |
| プロジェクトリーダー賞 | 懸濁廻戦 | 薬剤部 |



1位 受賞の C 棟 8 階チーム



吉川病院長から表彰

3.5

第2回MBT 難病克服支援 Webセミナーを開催しました

本学では、稀少な疾患ゆえに社会から放置されがちな難病患者や関係者の苦境を多くの人に理解していただくことを目的としたMBT 難病克服キャンペーンの一つとして本セミナーを企画し、定期的に開催しています。

第2回目となる今回は、日本介助犬協会の高柳知子専務理事、東京女子医科大学小児科の石黒久美子助教からご講演をいただきました。

まず、高柳氏からは、手足が不自由で車椅子生活の患者に24時間寄り添って生活支援する介助犬の話を、筋の萎縮が進行する筋ジストロフィー患者のご家族をお持ちの石黒先生からは、筋ジストロフィー治療や研究に携わる医療現場のお話をいただきました。



日本介助犬協会 高柳知子専務理事

お二方のご講演は、多くの方々に難病やそれに向き合う人々への理解を深めていただく一助となったと考えます。

今後もMBT 難病克服キャンペーンを通じ、難病について知っていただける、様々な取り組みを行ってまいります。



東京女子医科大学 石黒久美子助教

3.7

大和漢方医学薬学センター委員会を開催しました

本学における漢方医学薬学に関する教育・研究・診療活動の充実と県民の健康増進や地域の活性化を推進するため、大和漢方医学薬学センターを設置しています。

委員会では、令和3年度の事業報告や診療（漢方外来）の他、学生への東洋医学講義・外部講師を招いての漢方セミナーなど令和4年度に行う事業を検討しました。

令和4年度は、医師・薬剤師・看護師・医療関係者の漢方セミナーもできるだけ対面形式での開催を予定しています。日程が決まりましたらメールなどでお知らせしますのでご参加をお待ちしております。



運営委員会

3.14

在宅看護特別教育プログラムを修了しました

「在宅看護特別教育プログラム」1期生の平井彩夏さんが、全プログラムを修了し、3月14日に小竹在宅看護学教授から、修了したことを証する「修了証」が手渡されました。

このプログラムは、将来の奈良県における「在宅看護を牽引するリーダー」を育成することを目的に、受講生に対して修学資金を貸与し、大学と病院が連携して卒前・卒後の一貫した特別教育を提供するものです。

看護学科3年生及び4年生の2年間は、授業終了後の夜間に講義や演習を受講し、卒業3年間は医大職員として附属病院勤務や訪問看護ステーションに出向しての看護実践、4年目は希望する施設の職員として就業しながらプログラムを受講する、計6年間の継続教育となっています。

今後、このプログラムで得た幅広い知識やアセスメント力を活かし、地域での療養生活を支えながら、在宅看護力の高い人材育成に寄与することを期待しています。



小竹教授と平井さん



修了証授与の様子

3.16

MBTの在宅医療への取り組みについて

2022年は団塊世代が75歳に到達し、後期高齢者に仲間入りする初年度です。平均寿命、健康寿命は伸びつつありますが、今後は高齢者の受診機会が増大することが予想されます。その対策の一つとして、厚生労働省は在宅医療や遠隔医療等を推進しています。これらの状況を受けて、MBTでは新しい取り組みのひとつとして在宅医療・遠隔医療に関する新ビジネス・産業創生を展開していきたいと考えています。

MBT 研究所運営会議の中ではMBT コンソーシアムから「在宅医療部会」設置の報告がありました。在宅医療部会では、自宅で安心して医療を受けることができる機器の開発やシステム実現に向けて、医療従事者と会員企業が必要な仕様の検討等を行います。



在宅医療について検討

3.18 協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました

協定大学である奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を目的に、令和元年度より共同で共同研究助成事業を行っています。毎年度末には研究成果報告会を実施しており、今年は下記採択課題についての成果報告がありました。

〔IoT デバイスを用いた応用動作解析とリハビリテーションへの応用〕

本学代表者：リハビリテーション医学 講師 眞野 智生

奈良先端大共同研究者：先端科学技術研究科 教授 安本 慶一



リハビリテーション医学 眞野講師 奈良先端大 安本教授

〔心理課題下の視線運動解析を中心とする自閉スペクトラム症への医工連携によるバイオマーカー創発〕

本学代表者：精神医学 助教 岡崎 康輔

奈良先端大共同研究者：情報科学研究科 教授 中村 哲



精神医学 岡崎助教 奈良先端大 中村教授

今年度の報告会も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため WEB を通じての開催となりました。

また、報告会后、協定大学共同研究助成事業の選考委員会を行い、令和4年度の採択は、下記の2件に決定いたしました。

- ・ 膵臓癌における patient-derived xenograft mouse model を使用したテーラーメイド治療の開発

本学代表者：消化器・総合外科学 教授 庄 雅之

奈良先端大共同研究者：腫瘍細胞生物学研究室 教授 加藤 順也

- ・ 慢性運動器疼痛に対するカテーテル治療における新規高分子微粒子の開発

本学代表者：放射線診断・IVR 学 教授 田中 利洋

奈良先端大共同研究者：ナノ高分子材料研究室 教授 網代 広治

その後の連携活性化委員会では、

本年度、学部生のリサーチクラークシップに関する連携覚書の締結や、両学での出張講義、共同研究・公的研究費への応募等、研究者同士だけでなく、大学間の連携が年々増えてきている実績について話し合われました。

今年度は、交流会等の開催を含め、さらに連携活性化に向けた活動を行っていきます。

奈良健康フェア 2021 を開催しました

奈良健康フェアは奈良県立医科大学の主催で、お子さんからお年寄りまで、家族みんなが健康になれるような情報をお届けすることを目的に 2016 年から実施しています。2021 年度は、9 月にイオンモール橿原での体験イベントとオンラインによるハイブリッド開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、前年度に続きオンラインのみの開催となりました。“輝く未来へ健康チャレンジ”というテーマのもと、感染症センター笠原敬先生の感染予防に関する情報の他、難病、慢性痛、骨粗鬆症、認知症予防、緩和ケア、MBT 映画祭など様々な情報を提供しています。計 46 項目 (50 動画) のコンテンツは現在も公開中です。是非ご覧ください。



3.19

けいはんな映画劇場でMBT映画祭受賞作品を上映しました

午前10時と午後2時からの2回、関西文化学術研究都市のけいはんなプラザ“メインホール”で、けいはんな映画劇場が開催され、その中で、難病克服の啓発目的で制作されたMBT映画祭受賞作品4本を上映しました。

映画上映に先立ち、細井理事長は“MBT映画をご覧いただき、希少な疾患ゆえに社会から放置されがちな難病患者や家族の苦境を多くの人に理解し、難病に関わる人々や組織を支援する想いをぜひ持っていただきたい”と挨拶しました。

会場の入り口では、MBTパンフレットやジャーナルの配布、加えて2月末にAmazonや全国書店で販売が始まったMBTの新書籍「MBT～なぜ単科の医大に全業種から200社が集まったのか？～」のPRを通して難病克服キャンペーンを盛り上げました。



細井理事長挨拶

3.27

体験型大和漢方医学薬学セミナーを開催しました

医師を対象に、「漢方診療を学んでみませんか？」と題した大和漢方医学薬学セミナーを本学で開催しました。

大和漢方医学薬学センター三谷和男特任教授が講師となり、教育開発センターの若月教育教授の司会のもとに、第1部では、「大建中湯から漢方の真髄に迫る」と題して、大建中湯を中心に漢方について講演を行いました。基本的な内容の質問をはじめ、時間を超えての質疑応答が続きました。

第2部の実技編では、参加者に腹診シミュレーターに触れて頂き、腹診の仕方、鑑別、診断ノウハウの紹介をしました。シミュレーターは、症例ごとに準備されており、腹診の所見についての質問が出ると、三谷先生だけでなく、その場で腹診に詳しい他の参加者がレクチャーすることもあり、終始和やかな雰囲気でした。

休憩をはさみ、第3部では、本学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 岡安助教の症例報告があり、治療方法について討議されました。

2年ぶりの対面開催ということもあり、意見交換が活発に行われ、非常に有意義なセミナーとなりました。



若月教育教授



三谷特任教授



岡安助教

3.27

北海道更別村社会福祉センターにてMBT講演をしました

「みんなでつくる健康で幸せな暮らし」をテーマに北海道更別村で公開講座が開催され、MBT研究所 梅田副所長がICT(デジタル)を活用した健康・見守りについて講演を行いました。

最新事例および技術の紹介、さらに更別村で行った実証試験結果に基づいたニーズへの対応、さらには今後申請予定のデジタル田園都市構想に向けた更別実証の内容案などの話も含め住民および関係者から関心を集めました。住民(主に高齢者)の健康増進、遠隔で暮らす家族・親族等に安心感をもたらすことの重要性など、今後の展開に参加者たちは期待感を示していました。

MBTは、これからも地域包括ケアシステムやコミュニティづくりの一助となることを目的とし、積極的に関わっていききたいと思います。



MBT研究所 梅田副所長の講演

3.28

福島県伊達市霊山里山がっこうでMBT講演・意見交換会を開催しました

福島県伊達市にて、アップデートシティと題した新しいまちづくりが進んでいます。用地としては約13,000㎡、ハード面においては施設・公園・商業施設の他、戸建として200宅以上の建設が予定されており、ソフト面では地域ニーズを満たすICTを活用したサービスの検討、運営面では自治体を巻き込んだ持続的運営についての議論が進んでいます。

そのまちづくりメンバーとしてMBTが参画しており、今回、複数自治体での実証経験、最新テクノロジーの紹介など最新動向について現地関連メンバーに対してMBT研究所梅田副所長が講演を行い、まちづくりの当事者らとロードマップの作成、実現の仕方について議論しました。

各地でのMBT実証経験を踏まえ福島に合った戦略を検討し、これからもMBT構想の実現に向けた取り組みについて積極的に展開を図っていきます。



福島県伊達市メンバーとの意見交換会

Winner Report

11.27

第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会
学術大会で優秀演題賞を受賞しました

皮膚科学 講師 宮川 史

11月26日～28日に東京で開催された日本皮膚免疫アレルギー学会において、演題「薬剤性過敏症候群 (DIHS) における合併症、続発症を規定する因子の解明」の口頭発表を行い、優秀演題賞銀賞を受賞しました。DIHSでは、経過中に重篤な臓器障害の合併症を併発することがあり、軽快した後は続発症として自己免疫疾患を発症してくることが知られています。今回の発表では、末梢血 CD8 T 細胞上の T cell exhaustion marker、senescence marker が DIHS においてそれぞれ合併症、続発症の発症と関連している可能性について報告しました。浅田教授をはじめ、研究に協力いただいた教室職員の皆様に深く感謝申し上げます。



12.8

International Journal of Urologyにおいて
Top Cited Article Award 2020を受賞しました

泌尿器科学 講師 中井 靖

この度、日本泌尿器科学会のオフィシャルジャーナル International Journal of Urology におきまして、Top Cited Article Award 2020 を受賞させていただきました。本研究は、筋層非浸潤性膀胱癌に対する5-アミノレブリン酸を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術における第三相試験を報告した論文です。経尿道的膀胱腫瘍切除術の前に、5-アミノレブリン酸を内服すると、癌細胞において有意に蛍光物質であるプロトポルフィリンIXが蓄積し、膀胱癌の病変が赤い蛍光を呈し、筋層非浸潤性膀胱癌に対する診断精度が有意に上昇するため、適切な後治療を行える可能性を示した報告です。本研究の遂行にあたっては、愛知医科大学、高知大学、埼玉医大国際医療センター、浜松医科大学、山口大学の先生方をはじめ、多くの方々のご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。



12.11

第120回日本神経学会近畿地方会
で若手奨励賞(優秀賞)を受賞しました

脳神経内科学 後期研修医 大橋 智仁

ハイブリッド開催となった第120回日本神経学会近畿地方会における若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学脳神経内科学の大橋智仁後期研修医が、演題「片側の横隔神経麻痺を神経生理学的検査で経時的に評価し得たギラン・バレー症候群の一例」を発表し、優秀賞を受賞しました。ギラン・バレー症候群における呼吸筋麻痺の原因究明と発症機序を考える上で貴重な症例報告でした。今後の脳神経内科の診療・研究の励みとなり、さらなる活躍を期待しています。



12.11

第132回日本循環器学会近畿地方会
YIAセッション 優秀演題賞

循環器内科学 医員 信田 紗希

令和3年12月11日にWeb開催された日本循環器学会近畿地方会において、「冠動脈石灰化プラークの形態が薬剤溶出ステント留置後の心血管イベントに与える影響について」を口頭発表し、YIAセッションの優秀演題賞を受賞しました。この賞をいただけたのは、斎藤教授、渡邊先生をはじめ、親身にご指導いただいた先生方のおかげであり、心よりお礼申し上げます。心血管イメージングは心血管疾患の病態・リスク評価のためにさらに研究の必要な分野であり、この経験を糧に今後も研究を進展させるべく、精進して参ります。



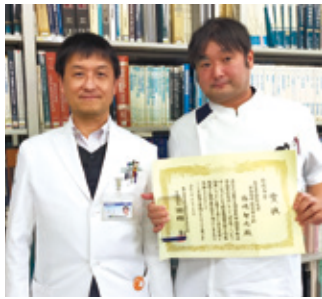
Winner Report

12.19

第19回日本神経理学療法学会学術集会にて最優秀演題賞を受賞しました

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 助教 塩崎 智之

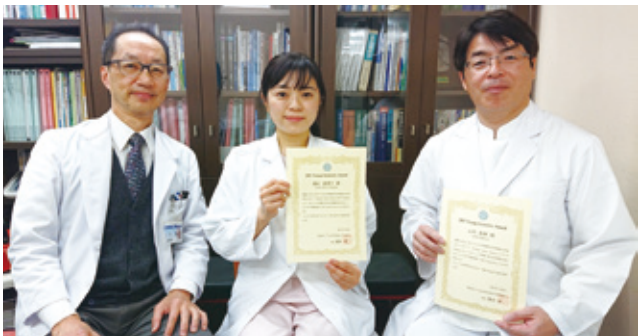
このたび、12月18日～19日にWEBで開催された第19回日本神経理学療法学会学術大会にて最優秀演題賞を受賞しました。受賞演題は「前庭リハビリテーションによる前庭動眼反射の改善効果について」です。日本ではまだ浸透していないめまいに対するリハビリテーションの改善効果を客観的指標にて検証しました。本研究にあたりご指導頂いた北原紘教授及び耳鼻咽喉・頭頸部外科学の先生方、また研究に協力いただいた患者さん方に深く感謝いたします。今回の受賞をきっかけにさらにエビデンスを積み重ね、めまい患者さんたちに還元できるように努力していきます。今後も人に求められる意義のある研究が行えるように精進していきたいと思っております。



1.20

JRS Young Scientist Awardを受賞しました
Scientist Awardを受賞しました呼吸器内科学 大学院生 濱田 恵理子
呼吸器内科学 准教授 山内 基雄

11月20日・21日の2日間、国立京都国際会館およびバーチャルサイトにおいて第25回アジア太平洋呼吸器学会学術集会(APSAR 2021)がハイブリッド開催されました。Emerging Talent Symposiaで、本学呼吸器内科学 大学院生の濱田恵理子先生が演題「Real World Data for CPAP adherence in Japan」のシンポジストとして優秀な発表をし、JRS Young Scientist Awardを受賞しました。なお、本シンポジウムは山内基雄准教授がオーガナイザーを務めたシンポジウム「CPAP adherence across the world」であり、オーガナイザーとしてScientist Awardを受賞しています。濱田先生の発表は、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対するCPAP治療のアドヒアランスについて検討した興味深い内容でした。今後の呼吸器内科診療・研究の励みとなり、さらに研究発展に貢献してくれるものと考えます。



2.4

第41回アルコール医学生物学研究会学術集会で優秀演題賞を受賞しました

消化器内科学 医員 芝本 彰彦

第41回アルコール医学生物学研究会学術集会におきまして、優秀演題賞を受賞しました。本受賞にあたりこれまでご指導いただきました吉治教授、浪崎講師をはじめ、多くの諸先生方に深く感謝申し上げます。受賞演題は「アルコール性肝硬変において%CDTと γ -GTPの組み合わせは飲酒マーカーとして有用である」でした。%CDTが飲酒マーカーとして肝硬変例でも有用であり、 γ -GTPと組み合わせることで高い診断能が得られることを報告いたしました。今回の受賞を励みに消化器病・肝臓病の日常診療ならびに病態解明や治療につながる研究に尽力して参りたいと思っております。



2.28

令和3年度FD活動表彰式を行いました

令和3年度は全11回のFDが開催されました。令和3年度FD活動の表彰については、医学教育フォーラム(テーマ:2021年度のICT活用教育について)において提出されたレポート(テーマ:授業(講義、実習)へのICTの活用方法(実践と着想))により、本学にとって有意義であり、非常に充実した意見を発表いただいた方を対象といたしました。結果、教養教育:高木拓明講師(物理学) 基礎医学:牧野舞助教(生化学) 臨床医学:山内哲司助教(総合画像診断センター)が表彰されました。



高木講師

牧野助教



山内助教

2.28 令和3年度TBL Best Teacher表彰式を行いました

本学では、アクティブ・ラーニングの教育手法として以前よりTBL (Team Based Learning) を導入してきました。令和3年度に行われた基礎医学Ⅰ(医学科2年生)、基礎医学Ⅱ(医学科3年生)、臨床医学(医学科5年生)におけるTBLの学生アンケートにて「一番興味を持ったTBL」に選ばれた担当教員がBest Teacherとして表彰されました。

基礎医学Ⅰ TBL Best Teacher 第二生理学
 講師 坂野 公彦
 基礎医学Ⅱ TBL Best Teacher 薬理学
 准教授 中平 毅一
 臨床医学 TBL Best Teacher 放射線診断・IVR学
 講師 伊藤 高広



令和3年度 学位授与の状況

博士(医学)

次の65名に博士(医学)の学位が授与されました。
 (甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

学位授与日 令和3年6月25日(金) 6名

(甲) 次橋 幸男 公衆衛生学
 吉原 真吾 公衆衛生学
 大井川 仁美 MBT学
 (乙) 中野 和俊 女性生殖器病態制御医学
 加藤 礼識 公衆衛生学
 松村 憲晃 運動器再建医学

学位授与日 令和3年9月29日(水) 4名

(甲) 久禮 智子 生体高分子学
 中野 章代 微生物学
 平井 香衣子 循環器病態制御医学
 松原 翔 女性生殖器病態制御医学

学位授与日 令和3年12月21日(火) 14名

(甲) 中西 康裕 公衆衛生学
 藤本 源 循環器病態制御医学
 尾邊 香 腎臓病態制御医学
 尾原 伸作 消化器機能制御医学
 杉本 啓紀 運動器再建医学
 松井 智裕 運動器再建医学
 井上 隆 臨床実証医学
 (乙) 岩佐 陽介 消化器・総合外科学
 木下 正一 消化器・総合外科学
 富外 清訓 整形外科学
 九鬼 一隆 精神医学
 後藤 晴栄 精神医学
 野田 正志 総合医療学
 萱島 道德 輸血部

学位授与日 令和4年3月15日(火) 41名

(甲) 野木 真紀 循環器病態制御医学
 川崎 佐智子 運動器再建医学
 倉田 慎平 運動器再建医学
 石田 光志 消化器病態・代謝機能制御医学
 小川 裕之 消化器病態・代謝機能制御医学
 高木 宏哲 消化器病態・代謝機能制御医学
 野木 一孝 循環器病態制御医学
 米田 梓 運動器再建医学
 久保 信代 精神医学行動神経科学
 古川 龍太郎 免疫学
 久保 慎一郎 公衆衛生学
 谷 里奈 分子腫瘍病理学
 宮川 良博 分子腫瘍病理学
 森 汐莉 分子腫瘍病理学
 寺崎 智志 循環器病態制御医学
 孤杉 公啓 腎臓病態制御医学
 茨木 敬博 呼吸器・血液病態制御医学
 藤岡 伸啓 呼吸器・血液病態制御医学
 七浦 仁紀 臨床神経筋病態学
 至田 洋一 脳神経機能制御医学

森本 堯之 脳神経機能制御医学
 近藤 裕美子 運動器再建医学
 杉本 澄美玲 女性生殖器病態制御医学
 竹田 善紀 女性生殖器病態制御医学
 平井 宏昌 視覚統合医学
 上田 淳哉 精神医学行動神経科学
 光井 康博 皮膚病態医学
 尾張 拓也 泌尿器病態機能制御医学
 齊藤 夏彦 画像診断・低侵襲治療学
 井上 正義 放射線腫瘍学
 八巻 香織 放射線腫瘍学
 藤原 亜紀 侵襲制御・生体管理医学
 佐々木 翔 病理診断学
 (乙) 福留 昭人 法医学
 中本 貴透 消化器・総合外科学
 原 良太 整形外科学
 石川 智朗 小児科学
 西川 大祐 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
 松村 八千代 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
 李 相太 感染症センター
 古家一 洋平 脳神経外科学

奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞

甲の学位論文申請者のうち主科目指導教員が推薦した者の中から医学の研究に最も優れた論文の申請者
 七浦 仁紀 臨床神経筋病態学

修士(医科学)

次の9名に修士(医科学)の学位が授与されました。

三井 勝裕 疫学
 菅野 沙帆 公衆衛生学
 森田 雅士 公衆衛生学
 常本 晋平 MBT学
 白井 大祐 運動器再建医学
 山中 頌貴 運動器再建医学
 嘉味田 浩輝 放射線腫瘍学
 中村 浩幸 放射線腫瘍学
 竹内 真央 病理診断学

修士(看護学)

次の14名に修士(看護学)の学位が授与されました。

西本 貴皓 看護学コース論文コース(健康科学(心と脳の発達学))
 田村 秀子 看護学コース論文コース(女性健康・助産学)
 堀井 えりな 看護学コース論文コース(看護実践応用学)
 溝尻 由美 看護学コース論文コース(看護実践応用学)
 王 晔堂 看護学コース高度実践コース(周麻酔期看護学)
 中谷 昌平 看護学コース高度実践コース(周麻酔期看護学)
 松田 雅江 看護学コース論文コース(看護実践応用学)
 松本 静香 看護学コース論文コース(在宅看護学)
 森口 絵美 看護学コース高度実践コース(がん看護学)
 浅野 鞠枝 助産学実践コース(女性健康・助産学)
 上田 皐月 助産学実践コース(女性健康・助産学)
 木村 美優 助産学実践コース(女性健康・助産学)
 雑喉 春佳 助産学実践コース(女性健康・助産学)
 松尾 朋美 助産学実践コース(女性健康・助産学)

未来への飛躍基金だより

平素より、未来への飛躍基金へのご協力を賜りありがとうございます。

基金は、本学関係者の皆様からのご厚志によって支えられております。令和4年度も、皆様のご期待やご意思にお応えするよう活用してまいりますので、引き続きご支援の程よろしくお願い致します。

平野 貞治 氏の紺綬褒章伝達式を行いました。

令和3年3月に、本学 未来への飛躍基金に多額のご寄附をなされた 平野 貞治 氏へ国より紺綬褒章に係る褒状が授与されました。これを受け、令和4年2月15日(火)に理事長室において、伝達式が執り行われました。



細井理事長・学長から伝達が行われました。



左から細井理事長・学長、平野氏、柘井副理事長

本学は、内閣府賞勲局より紺綬褒章に係る公益団体として認定を受けております。基金に500万円以上の寄附をいただいた方(個人)及び1,000万円以上の寄附をいただいた団体・企業の方は紺綬褒章授与申請の対象となります。

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和4年3月末で累計3,726件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、令和4年1月～令和4年3月にご寄附いただいた方のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

國分 清和 様 坂本 光章 様

◆30万円以上100万円未満

廣橋 里奈 様 三橋 二良 様 吉岡 章 様
芳野 浩樹 様

掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆10万円以上30万円未満

大西 峰夫 様 酒井 宏水 様 坂本 一喜 様
八田 一郎 様 牧之段 学 様 宮尾 孝治 様

◆10万円未満

村上 真也 様 山内 崇平 様

掲載を希望されないご寄附者様 6名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

小野寺隆平 様 洲脇 直己 様

【法人・企業】

◆100万円以上

一般財団法人 弘済会 様

◆10万円以上30万円未満

社会福祉法人 大阪暁明館 様

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

奈良県立医科大学 総務広報課

TEL: 0744-22-3051 (内線: 2803) E-mail: hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

未来への飛躍基金 HP: <https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/> または「未来への飛躍基金」で検索!



公開講座情報

第4回わい和いNARA在宅サポート研究会 研究発表会

日時：2022年6月4日(土) 10:00～15:30

開催方法：オンライン

(ZoomによるLIVE配信とオンデマンド配信)

テーマ：ともにはぐくみ支える力

～交流からうまれる多職種連携、いままでとこれから～

概要：講演、シンポジウム、研究発表、事例検討

講演者：【大会長講演】

医療法人良翔会訪問看護ステーションみそら

所長 小林 千恵子

【シンポジウム】

インクルーシブ美吉野園

主任、介護支援専門員 中川 義孝

奈良県立医科大学附属病院入退院支援センター

ソーシャルワーカー 緑谷 奈生

社会医療法人医真会ふれあい訪問看護ステーション

科長 大川 由美子

医療法人良翔会訪問看護ステーションみそら

理学療法士 中川 勝利

申込方法：氏名、所属、連絡先を明記の上、6月2日(木)までにメールまたはFAXでお申し込みください。

折り返し、事務局から参加方法の詳細をお知らせします。

メール ynarak@naramed-u.ac.jp

FAX 0744-29-7555

備考：参加費無料

問合せ先：わい和いNARA在宅サポート研究会事務局

(医学部看護学科 在宅看護学内)

TEL 0744-22-3051 (内線2750、2760、2776)

URL <https://fb.me/e/13TJN01Jp>



令和4年度入試結果

		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦(緊急医師確保)	13	78	74	13	0	13	6.0	5.8
	推薦(地域枠)	25	140	137	25	0	25	5.6	5.7
	前期	22	143	117	22	0	22	6.5	7.0
	後期	53	1,311	201	60	7	53	21.9	13.3
	編入学(研究医枠)	1	0	0	0	0	1	0.0	4.0
	小計	115	1,672	529	120	7	114	13.9	9.9
看護学科	推薦(地域枠)	35	70	69	35	0	35	2.0	2.5
	前期(一般枠)	40	73	71	40	0	40	1.8	2.6
	前期(地域枠)	10	37	37	10	0	10	3.7	4.0
	小計	85	180	177	85	0	85	2.1	2.7
医学部	合計	200	1,852	706	205	7	199	9.0	7.0

編集後記

皆様からご協力いただき第80号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

今年は3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークとなりましたが、リフレッシュできたでしょうか。季節の変わり目は体調も変化しやすいので、引き続きの感染対策と体調管理にお気をつけください。



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2022年			
1月12日	QLifePro 医療 NEWS	化学 教 授 酒井 宏水	大量出血に対する人工赤血球を用いた救命蘇生、動物実験で有用性を確認
1月12日	マイナビニュース	化学 教 授 酒井 宏水	分娩時の妊婦の大量出血に対する人工赤血球の有効性を防衛医大などが確認
1月18日	ナゾロジー	化学 教 授 酒井 宏水	「人工赤血球」で大量出血したウサギの救命に成功!
1月21日	大学ジャーナルオンライン	化学 教 授 酒井 宏水	分娩時大量出血に人工赤血球による救命蘇生
1月27日	奈良新聞	微生物感染症学 教 授 矢野 寿一 准 教 授 中野 竜一	奈良医大(学術的研究、実証実験)とやまと真空工業(独自コーティング技術)が共同で「プレミアム高性能マスク」を開発
1月28日	日刊サイゾー	化学 教 授 酒井 宏水	妊婦の大量出血による死亡に新たな研究結果、人工赤血球の投与でも救命の可能性
1月29日	日本経済新聞	MBT 研究所 副 所 長 梅田 智広	北海道沼田町は、奈良医大 MBT と組み、独居の高齢者を遠隔で見守る実証実験に乗り出した
1月31日	朝日新聞 読売新聞	微生物感染症学 教 授 矢野 寿一 准 教 授 中野 竜一	県立医大とやまと真空工業が、抗ウイルス性の高い不織布マスクを共同開発
2月4日	科学新聞	化学 教 授 酒井 宏水	分娩時の大量出血、人工赤血球で救命
2月5日~26日 (毎週土曜)	ラジオ大阪 そこの知りたい情報局!	脳神経内科学 教 授 杉江 和馬	脳卒中について解説
2月8日	読売新聞	救急医学 教 授 福島 英賢	「救えぬ命 出てくる恐れ」医療現場の窮状語る
2月14日	NHK 奈良 ならナビ	救急医学 教 授 福島 英賢	新型コロナウイルス感染者の急増にともなう救急現場の状況についてインタビュー
2月19日	読売新聞	公衆衛生学 教 授 今村 知明	コロナ中等症病床逼迫 高齢者転院目詰まり
2月22日	@ DIME	免疫学 教 授 伊藤 利洋 微生物感染症学 教 授 矢野 寿一	「柿渋」中のタンニンで新型コロナウイルスの不活化を確認
2月24日	医事出版社 メディカルビューポイント	疫学・予防医学 特任准教授 大林 賢史	特集の日常臨床で知っておくべき睡眠障害の基礎知識の中で「日本人の睡眠事情と課題」について概説
2月24日 2月25日	NHK 奈良 ならナビ	救急医学 教 授 福島 英賢 感染症センター 教 授 笠原 敬	シリーズ「新型コロナ感染拡大 最前線の医師に聞く」
2月26日	Yahoo! ニュース m3.com	感染症センター 教 授 笠原 敬	クラスター発生したら「通常業務維持する考え捨てて」施設内感染への対応、専門家が最初に伝える一言は?
3月1日	NHK 奈良 ならナビ	小児科学 准 教 授 武山 雅博	5歳~11歳対象新型コロナワクチン接種のポイントを解説
3月1日	奈良テレビ 県政フラッシュ	臨床研究センター 教 授 笠原 正登 臨床研究センター 講 師 浅田 潔 がんゲノム・腫瘍内科学 教 授 武田 真幸	2月27日に開催された臨床研究県民公開講座の紹介
3月2日	関西テレビ 報道ランナー	附属病院長 吉川 公彦	重症病床ひっ迫「ここは県民の最終ディフェンスライン」
3月2日	関西テレビ 報道ランナー	小児センター 病 院 教 授 朴 永録	「乳幼児の硬膜下血腫の3分の2は事故」国の「虐待対応マニュアル」と大きく異なる結果 脳神経外科医グループが調査
3月3日	NHK 奈良 ならナビ	消化器内科学 教 授 吉治 仁志	肝炎ウイルス検査の重要性について解説
3月15日	読売新聞 夕刊	皮膚科学 教 授 浅田 秀夫	帯状疱疹を予防するワクチンについて解説
3月23日	奈良テレビ ゆうドキッ!	透析部 病 院 教 授 米田 龍生 透析部 看 護 主 任 里 正士 産婦人科学 助 教 長 赤坂珠理晃 パースセンター 師 長 吉川 紀子	医療現場の声~透析患者・妊婦と向き合う~
3月24日	奈良テレビ ゆうドキッ!	高度救命救急センター B棟6階 師 長 浦西ゆかり 松岡 栄	医療現場の声~救急医療とトリアージ外来~
3月24日	関西テレビ 報道ランナー 読売テレビ ten.	小児センター 病 院 教 授 朴 永録	専門家としての正しい意見を述べたことが、児童相談所の一時保護継続を「違法」とする判決に大きく影響した
4月1日	m3.com	総合医療学 教 授 西尾 健治 在宅医療支援センター 特 任 助 教 西村 信城	在宅医療支援センターを新設、圏内在宅医のサポートを開始
4月2日~30日 (毎週土曜)	ラジオ大阪 あすの健康を願って	循環器内科学 助 教 中川 仁	高血圧について解説
4月4日	NHK 奈良 ならナビ		入学宣誓式の様子と新入生のインタビュー
4月5日	NHK 奈良 ならナビ	附属病院長 吉川 公彦	4月1日から開始した365日24時間ERについて
4月6日	朝日新聞	呼吸器内科学 教 授 室 繁郎	COPD(慢性閉塞性肺疾患)についてコメント
4月7日	NHK 奈良 ならナビ	感染症センター 教 授 笠原 敬 医学科 5 年 竹下 沙希	感染症センターで臨床実習を行う学生を紹介
4月8日	朝日放送 探偵!ナイトスクープ	名 誉 教 授 大崎 茂芳	「スパイダーマンになりたい4歳児」の夢を、蜘蛛の糸博士が叶える
5月10日	ラジオ NIKKEI 医学講座	消化器内科学 教 授 吉治 仁志	日本医師会企画の医療者向け生涯教育番組で「肝硬変治療の変遷」について解説

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206